

<平成28年度>

鳥取県文化芸術事業

# 評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

# ～ 目 次 ～

I 総合評価	1
II 実施結果概要	
1. 実施事業一覧	4
2. 評価の体系	4
III 事業別評価	
1. 第7回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県地域振興部文化政策課）	5
2. 第60回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域振興部文化政策課）	10
3. 第14回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2016 東部地区事業（東部地区企画運営委員会）	13
4. 第14回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2016 西部地区事業（西部地区企画運営委員会）	18
5. 第14回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2016 メイン事業 鳥たちの音楽祭Ⅱ メインコンサート This is Jazz!!	23
6. 第14回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2016 中部地区事業（中部地区企画運営委員会）	26
7. 第38回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会）	29
IV 専門家評価	31
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	34
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告執筆担当一覧	35
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	36
○鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	37

# I 総合評価

## 1. 今年度の評価方法

評価方法は、昨年度と基本的には同様である。大項目、中項目を達成するための小項目の目標は、各事業の実施者に設定してもらった。

評価の客観性を確保するため、各事業とも複数名の評価委員が検証することとしたほか、事業開催当日のみを対象として評価するのではなく、プレ事業やリハーサルの様子など、制作過程や関連事業などについてもできる限り実地検証を行い、評価の材料とした。

その上で、実施者が設定した目標に対する自己評価、観客アンケート、実施者アンケートなどを踏まえて、実地検証した委員それぞれが評価レポートを執筆。そのレポートを、事業ごとに定めた主筆・副筆担当が総合的にまとめたものを委員会で議論、意見交換し、検討した上で各事業の評価原案を作成した。

事業実施者との認識の相違や事実関係の誤認防止のため、実施者に評価原案を提示。実施者から意見や指摘をいただいた上で、より適正な内容や表現となるよう原案を修正し、評価報告書としてまとめた。

達成度は、昨年度と同様に「達成」3点、「概ね達成」2点、「一部達成」1点、「未達成」0点と数値化し、パーセンテージで表した。なお「未評価」については、達成度のパーセンテージから除外している。

報告書は、本編と資料編から成る。本編は実施者の自己評価コメントと評価委員会のコメントを併記。写真も組み入れ、事業の様子を分かりやすくした。資料編には入場者数やアンケートなどの数値的な定量目標と実績を表記。事業ごとにグラフ化もし、視認しやすい内容としたほか、各事業のチラシも掲載した。

## 2. 今年度の事業評価

評価対象とした事業は、次の通り、合わせて7事業である。

とリアートの事業についてはプレ事業やリハーサルなども含めて検証。鳥取県文化政策課主催事業は鳥取県美術展覧会の公開審査も実地検証し、それぞれ評価の判断材料とした。鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業については、助成金額の大きな基本型モデル事業のみに絞って評価対象とした。

- ① とリアート・メイン事業(1事業)
- ② とリアート・東、中、西部の各地区事業(3事業)
- ③ 鳥取県文化政策課主催事業(とっとり伝統芸能まつり、鳥取県美術展覧会の2事業)
- ④ 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業の基本型モデル事業(1事業)

なお、今年度は平成28年10月21日に発生した鳥取中部地震の影響で、鳥取県美術展覧会は、倉吉巡回展が中止された。また、とリアート中部地区事業は、会場の倉吉未来中心が甚大な被害を受けて開催できなくなったため一旦中止を決めたが、小ホールが平成29年1月27日に利用再開されたのを受け、規模を縮小して開催するなど、一部の事業が例年とは異なる環境での実施だったことを記しておく。

### (1)とリアートメイン事業「鳥たちの音楽祭Ⅱ メインコンサート This is Jazz!!」

プロによる指導や演奏、またプロとのセッションは次代を担う子どもたちへの大きな活力となる事業であり、とリアート東部地区事業との連携や各種ワークショップなどのアウトリーチが、メインステージに有機的につながっていた。設定された目標の達成度は、事業実施者の自己評価および評価委員会による評価のいずれも90%以上の高い値であり、成功した事業といえる。

平成27年度のメイン事業において指摘したアンケートの回収率(27年度実績14.2%)も向上。高い回収率とまでは言えないものの、全体の傾向を示すのに必要とされる30%以上の目標を達成し30.3%としている。加えて観客の満足度も90%と高かった。

なお、ワークショップについては専門家評価でPR不足が指摘されている。内容が良いだけにこれは残念な点であり、さらなる広報の工夫が必要であったのではないかと。

大きな課題は鑑賞者数である。26年度のメイン事業のミュージカル「アオイ」が2回公演で675人とどまり、集客を課題として指摘したところ、27年度のオペラ「魔笛」は1回公演で822人と向上した。しかしながら、今年度は目標数値が700人と低く、本公演の鑑賞者数は660人とどまった。これは2000万円規模の県費を使って開催されるメイン事業としては少ない集客数である。メイン事業としてより多くの県民に鑑賞してもらうための広報が不足していたといわざるを得ない。

昨年も指摘した通り、過去のメイン事業の多くは、いわゆる単発の打ち上げ花火で終わっている。公演成果が規模を縮小した再演や地域と同様な事業の取り組みなどとして、地域の財産となって根付いたものはわずかである。新生とリアートとなって以降、メイン事業公演の事業実施者である委員会は事業が終了すれば解散してしまうというシステムの中で、巨額の県費を使って開催されるメイン事業の成果を地域に活かしたり、育成などの継続性を持たせるためにどうすればよいかは抜本的な課題である。平成29年度からは、準備から本番までの3年間にかけての企画となるが、成果を地域に残せるような取り組みを期待する。

## (2) とりアート各地区事業

東部、中部、西部の3地区ともアンケートによる満足度は90%を上回っており、それぞれカラーは異なるものの、来場者のニーズをとらえた企画を実施された成果であるといえる。

東部事業については、11月上旬の開催であった。貝殻節の創作ステージは、弦楽器、和楽器、日本舞踊などのコラボレーションにより素晴らしいものとなった。地域の財産の新たな視点での発掘であり大きく評価できる。シネマの鑑賞者が極めて少ないなど催しによって鑑賞者のばらつきが大きい。またクロージングイベントの鑑賞者・参加者が少なく寂しい。尻すぼみにならないよう改善のための取り組みをしてほしい。

中部地区事業は、鳥取中部地震のため会場が使えず一度は中止となったが、小ホール再開に伴い、2月に規模を縮小して開催。鑑賞機会を提供して裾野の拡大を図り、震災で沈む中部の復興に向けて元氣と文化の発信につながったことを評価したい。アンケート回収率も高かった。ワークショップで発生する音と、ステージイベントでの演奏などの鑑賞環境の両立に課題はあったものの、狭い会場で多くの制約がある中、知恵を絞って工夫した内容だった。今回の知恵を次年度にどう活かしていくかが求められる。

西部地区事業は、11月下旬に日野町で開かれた。2年連続の同町での開催は、日野にとりアートを浸透させる上で効果的だった。同時開催の地元のまつりとの連携も評価したい。一方で同じ西部地区でも大山町や境港市などからは距離があり、その点では気軽に参加にしにくい環境でもある。どのように地区内を巡回し、とりアート西部事業の認知度を上げていくのか、工夫と検討を重ねてほしい。アンケートの満足度が今年度の評価対象事業の中で最も高い93.7%だったことは素晴らしい実績である。課題として、オープニングの鑑賞者が20人では少なすぎる。また、今年度はワークショップや展示の規模が小さかった。昨年が充実していただけに残念な点である。

## (3) 鳥取県文化政策課主催事業

「第7回とっとり伝統芸能まつり」では、入場者数が1,597人と多く、目標の1,100人および平成27年度実績1,153人、26年度実績956人のいずれも上回った。アンケート回収率は目標の40%には届かなかったが全体の傾向を示すとされる30%以上の36.4%とまずまずであった。満足度の88.1%は低くはないものの目標の95%および27年度実績の98.9%を下回ったのは残念である。理由を分析して向上に努めてもらいたい。

県外、海外団体の質の高い演目を鑑賞できることは素晴らしい。発表の場を設けるだけでなく、交流会の県内参加者を増やすなど活動者の意識向上を図り、県内伝統芸能の「質の向上」にも取り組んでほしい。

映像などによる団体や地域の紹介は、上演される伝統芸能の背景が分かる素晴らしい取り組みである。ただし、映像では誤字などをなくすなど精査が必要であると感じた。

「第60回鳥取県美術展覧会」(県展)については、60回目という節目であったが鳥取中部地震の影響で倉吉巡回展が中止されたのは残念であった。課題は、アンケート回収率の低さである。平成26年度に要改善事項として向上を求めた結果、27年度は飛躍的に改善された回収率(20.9%)だが、今年度は目標の21%に届かず13.6%にとどまった。26年度の8.3%や25年度の9.2%という1割以下の回収率ではなかったが、せっかく2割を超えていたものが、なぜ下がったのか。回収率の高かった倉吉巡回展(27年度31.3%)が地震の影響で中止となったこともあろうが、他会場でも向上に努めることが必要だ。

また、出品について応募者数の減少が続く中、応募者を増やす取り組みについても目標化が望ましい。

各会場でのギャラリートークの実施や、書道の釈文などの親しみやすく、分かりやすいものにしようとする取り組みはアンケートでの評価も高く、継続してほしい。

来場者数については倉吉巡回展が中止となったため、総数としては7,695人と目標の9,000人を達成できなかったが、年度ごとの比較のために評価委員会としては単純に来場者総数で評価するのではなく、1日当たりの来場者数を指標としている。今年度は目標(225人/日)および昨年度実績(185人/日)を大きく上回る296人/日となった。これは昨年指摘した新聞広報についての改善がなされ、アンケートによると県展を知った媒体について新聞・ミニコミ誌等の回答が41%と多く、新聞広告や記事などの広報が奏功していると考えられる。県展をより多くの県民に鑑賞してもらうためにも引き続き広報に力を入れてもらいたい。

## (4) 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業・基本型モデル事業

今年度の評価対象事業は、第38回鳥取県書道連合会展だけであった。入場者数は目標の800人を下回る682人とどまり、平成27年度の1,026人から大きくダウンしたのは課題である。自己評価においても「広報効果がいまひとつ」とあるように、広報に努力や工夫の余地があろう。27年度は各所でポスターを見かけることも多く、初めての来場者が4割もあるなど広報努力が実を結んでいたのだが、今年度はなぜ大きく下がったのか、十分な分析をして次年度は改善されることを期待している。

もう一つの課題は、アンケート回収率である。かつて評価委員会の指摘によって改善に尽力され、26年度には40.2%と高かったのだが、27年度は目標の20%を下回る13.6%にとどまり、今年度はさらに下がってわずか8.4%であった。回収率の高かった年は、アンケート記載を呼び掛ける積極的な声掛けがみられたが、実地検証した委員によると今年度は声掛けがなかったという。来場者の声を吸い上げるためにも、26年度のように回収率向上に取り組み、目標を達成してほしい。

満足度は27年度実績の89.3%には及ばなかったものの、目標の80%を上回る84.8%となり、質の高さを裏付けている。担当した委員のひとりが、一來場者として(評価委員であるとは告げないで)会場スタッフに声を掛けて解説を求めたら丁寧にポイントを説明してもらい、分かりやすくて大変満足したという。本展は作品の質も高く、定番となった「童謡・唱歌を書く」も素晴らしい取り組みである。今後も継続してほしい。

### 3. 今後の評価に向けて

とりアートの各地区事業について、会場を地区の中心市ではなく郡部で開催したり、本編開催の数ヶ月前にプレイベントではなく事業の一環として商業施設で一部を開催するなどの多様化が進んでいる。評価システムもそれに合わせて変化が求められており、従来のように開催当日だけでは本質的な評価ができない環境となった。そのため、昨年度から他の事業も含めて、プレイベントや創り上げる過程の一部なども実地検証し、評価に資することとしている。プレイベントなどを担当評価委員が日程的に実地検証できない場合は、担当外の委員を募り、実地検証の上、レポートを提出してもらうという柔軟な対応をしているが、より事業改善に役立つ評価ができるように工夫していかなければならない。

評価シートの見直しもその一環として必要だろう。とりアート東部地区事業では、自己評価欄に【成果】と合わせて【課題】を記載しており、事業改善に向けた前向きな姿勢が感じられる。評価委員会では、この方式を全事業者共通のスタイルとしてはどうかという意見が出ている。評価委員もそれに合わせて【成果】と【課題】を明記することで、事業実施者が自己分析した課題と外部の評価委員の視点でみた課題をすり合わせて検証し、よりよい事業とするのに有効であると考えている。

今年度の特筆事項として、10月に倉吉市などで震度6弱を観測した鳥取中部地震の影響について述べたい。

倉吉未来中心や倉吉博物館などの文化施設のほか、県展の倉吉巡回展を開催したことがある県立体育文化会館体育館など多くの建物が被災し、各種イベントや文化芸術事業が中止に追い込まれた。中部地区では約15,000棟の家屋が損壊し、平成29年3月末においてもブルーシートのかかった家がまだ多くある。筆者も自宅の屋根が全損。屋内も惨憺たる状況であったため、被災した住民の暗鬱な気持ちはよく分かる。

その中で、とりアート中部地区事業のアンケートに「震災にあつて体がしんどくて気分がわるかったけど、本日のイベントで楽しくてよかったです」という感想があった。また、評価対象外の事業だが、運よく被災しなかった倉吉市内の会場で、地震10日後に開かれた演劇公演では、アンケートに「観劇中は地震のことを忘れられ、ありがたかった」「この時期だからこそ開催してもらってうれしかった」などの声が多かった。

これらは、辛く苦しい時にこそ文化芸術が心の支えとなりうることを示している。

同じく評価対象外事業ではあるが、震災で県展の倉吉巡回展が中止となったことを受けて、琴浦町教育委員会の主催により、県展に入選した同町民の作品展が同町まなびタウンとうはくで12月に5日間、開かれた。県展賞2点や中学生の初入選作、無鑑査を含む計17点が会場に並び、全体のごく一部ではあるが、県中部地区の住民に近場での鑑賞機会が提供されたことは喜ばしい。同町社会教育課によると鑑賞者数は316人で、これは昨年度の倉吉巡回展入館者数1,111人の4分の1以上、28.4%になる。ごく一部の展示であり、倉吉市からは自動車でも30分の距離がある会場でも、それだけの鑑賞ニーズが存在しているのである。

少子高齢化と人口減が進む中で文化芸術分野の活動者も鑑賞者も少なくなってきており、将来のためにも心を豊かにする文化芸術の活動者や鑑賞者の育成、掘り起こしが求められている。文化芸術活動に参加したり鑑賞することが、その人自身の人生を豊かにすることを県全体でもっとPRしていかなければならない。

鑑賞者の感動や満足度の向上および活動者の意識や技術を上げていくためには、催しの質の向上や課題の抽出が必要である。評価委員会は事業を単に採点するために存在するわけではない。事業実施者と評価委員会が両輪となって事業改善に向けて進むことで、さらなる県内の文化振興につながると考える。

平成29年3月  
鳥取県文化芸術事業評価委員会  
会長 尾上 明

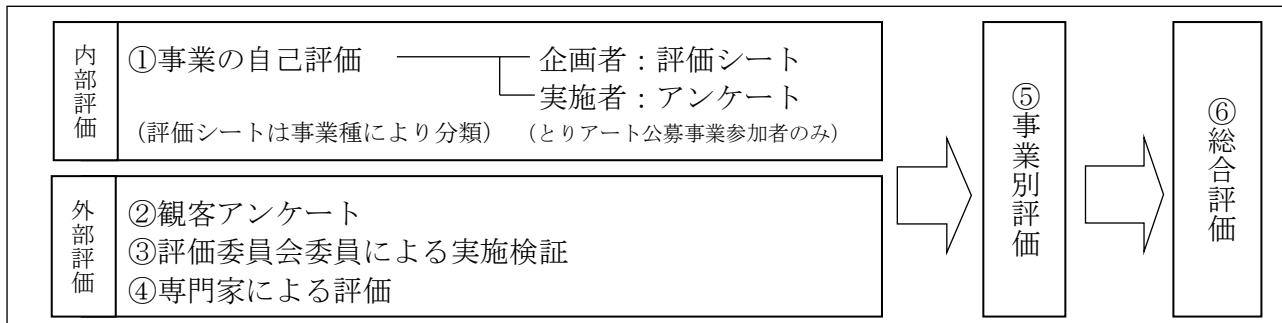
## II 実施結果概要

### 1. 実施事業一覧

番号	主体	団体名	事業名	期日	実績(目標)				
					入場者数 (人)	アンケート 配布枚数 (枚)	アンケート 回収枚数 (枚)	アンケート 回収率	満足度
1	鳥取県	鳥取県 地域振興部 文化政策課	第7回とっとり伝統芸能まつり	6月26日(日)	(1,100) 1,597	1,597	582	(40%) 36.4%	(95%) 88.1%
2	鳥取県	鳥取県 地域振興部 文化政策課	第60回鳥取県美術展覧会	9月17日(土) ～10月30日(日)	(9,000) 7,695	7,695	1,048	(21%) 13.6%	(95%) 93.4%
3	鳥取県総合 芸術文化祭 実行委員会/ 鳥取県	東部地区 企画運営 委員会	第14回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2016東部地区事業	11月5日(土) 6日(日)	(7,000) 6,837	1,678	290	(20%) 17.3%	(95%) 92.1%
4		西部地区 企画運営 委員会	第14回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2016西部地区事業	11月19日(土) 20日(日)	(1,500) 1,459	835	253	(40%) 30.3%	(70%) 93.7%
5		とリアート スペシャル コンサート 実行委員会	鳥たちの音楽祭Ⅱ メインコンサート This is Jazz!!	11月23日(水・祝)	(700) 660	660	200	(30%) 30.3%	(80%) 90.0%
6		中部地区 企画運営 委員会	第14回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2016中部地区事業	2月18日(土)	(500) 651	365	272	(30%) 74.5%	(90%) 90.4%
7	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県書道 連合会	第38回鳥取県書道連合会展	2月1日(水) ～2月5日(日)	(800) 682	682	59	(20%) 8.7%	(80%) 84.8%

※( )内の数字は、目標数値。

### 2. 評価の体系



### Ⅲ 事業別評価

#### 第7回とっとり伝統芸能まつり(鳥取県地域振興部文化政策課)

平成28年6月26日(日) 倉吉未来中心

#### 文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	伝統芸能活動団体の意欲向上につなげるため、功労団体の表彰を行うとともに、県内伝統芸能活動団体の発表の場を設ける。	<b>達成</b> 表彰は800年ほど前、空也上人が広めたとされる念仏踊りと各地から入ってきた踊りが混然一体となって生まれたとされている逢東盆踊りが選定された。 例年以上に県内出演団体が、モチベーション高く、しっかりと練習をしてきたことが伺え、また育成中の子供たちにもハレ舞台を経験させるべく、大勢で参加してきた。県外・海外の芸能との共演も刺激になっているようである。 また、11月に開催される中四国文化の集いの告知をしたが、来場者は、とっとり伝統芸能祭りと同等レベルの期待をもって多数来場されることが期待される。 逢東盆踊りは子供12名を入れた総勢32名の大勢での公演を実施。 また、福栄かしらうちも14名の子供が参加して総勢37名にて公演。 また、覚寺さいとりさしも子供が参加などと、後継者育成において各保存会が伝統芸能祭りをきっかけにより益々積極的に活度を進めている。	<b>達成</b> 後継者育成に力を入れている団体が受賞したことは、他団体への刺激にもなり、今後の継承・発展につながる。 どのような団体、ジャンルが受賞しているのかを知ってもらうために、第1回からの受賞団体をプログラムに掲載してはどうか。
		地域の歴史や伝統文化を取り上げ、各保存会が継承および発展に向けて続けている各通年行事と新たに試みようとする事業を促進するきっかけとする。	<b>概ね達成</b> 伝統芸能まつりにおいても参加者、来場者から毎年の実施を希望されている。また、逢東盆踊り・福栄かしらうちは、演目の手引きとなる映像収録の作成にチャレンジすることになっている。 また、その2保存会は、県外・海外の交流会に積極的に参加され新たな交流や情報交換に積極的であった。	<b>達成</b> 逢東盆踊りと福栄かしらうちが、演目の手引きとなる映像収録の作成に取り組むのは、新たなチャレンジとなる事業だと思う。手引きの映像収録が他団体へも広がり、鳥取伝統芸能アーカイブスへの登録掲載が増えることにも期待する。
		ホームページ上で表彰・出演団体の活動状況を紹介するなど、県内伝統芸能の情報発信に努める。	<b>概ね達成</b> 伝統芸能祭りオリジナルHP.CM.チラシなどの広報によって、情報発信はもとより、月1000以上のアクセスのある伝統芸能アーカイブスにも掲載をした。 (http://www.tottori-dentou.net/)           この度は、県外からの集客が53人(昨年34人)と例年以上に多かったが、基本、県内での告知しかしていないので、このHPがある程度有効に機能したと思われる。	<b>達成</b> 見やすいホームページで、情報発信源として有効である。
歴史に埋もれた文化芸術の再発見		参加伝統芸能と地域のつながりを紹介して、その場所に行ってみたくと思える演出を行う。 内容の評価や効果の確認/当日の観客アンケートなどによって調査。	<b>達成</b> HP・写真パネル・映像による団体及び地域紹介を行うことで、各団体の地域PRもうまくいったと思われる。アンケートにおいても「地域紹介映像を見てその地域に行ってみたく思った。」などの回答あり。	<b>概ね達成</b> 演技が始まる前の映像紹介は効果があった。今後も取り組んでほしい。残念なことに紹介映像に誤字などがあり、ナレーションと映像が一致していない場面もあった。今後は地域紹介の映像の出来栄が課題となると思う。

伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県の地域に伝わる伝統芸能を多くの方々に知って興味を持っていただく。 より多くの来場者につなげ、伝統芸能ファンを広げる。 目標来場者数1100人	<b>達成</b> 来場者はとつとり伝統芸能まつり始まって以来の最多数の1597人。 海外・国外芸能のインパクトもあるが、リピーターが確実に増えていることと、広報手段が的確であることが伺える。 ただし、他の大型イベントが隣で実施していたため、会場1時間前には駐車場が満杯となっており、帰られたお客様が多数いたようだった。 同じ、行政イベントなので上手に連動できればよかった。	<b>達成</b> 入場者目標の達成は見事。若年層だけでなく40-50代に響く取り組みも必要。 県内だけでなく、普段は目にできない県外や国外の演技が見られることも非常に魅力。互いの良さや文化の違いなどを感じることができる。 駐車場誘導の警備員が、停めるところがないのに、入り口から駐車場内へ誘導しているため、多くの車がぐるぐるとさまよっては、結局外に出て行った。空いているスペースを確認して的確に誘導したり、スペースが無いなら満車を伝えるべき。
		舞台参加・他芸能との鑑賞・交流によって、出演者のモチベーションを上げてもらい、価値ある文化を継承しているという、多くの人たちが同じ意識を持って行動できるようなきっかけとする。	<b>概ね達成</b> 多くの出演者は別演目の時には、観客として観覧しており、大いなる刺激を受けていたようだった。特に前日県外・海外のリハーサルを見た県内出演者は「刺激を受けた」「すごい」などとコメントを聞けたが、本番もより気持ちが入っていたように思われた。	<b>概ね達成</b> 観覧と交流が実現できて、出演者には刺激になったり、モチベーションの向上がなされたと考えられる。ただ、「同じ意識」を持って行動できたかどうかについては、目標の高さゆえに、まだそこまで至っていないのではないか。
創造	質の高い文化芸術活動	演目をコンパクトにまとめ、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容とするよう努める。 質が高いとの評価をアンケートより43パーセント以上目標 来場者アンケートより	<b>達成</b> 演目の内容・演出・進行について、出演者・来場者からも聞ける範囲では全てから好評価をいただく。選定委員の方からも「今までの中で最高でした」とも言っていた。 来場者アンケートからは ・演奏・演技等の質 ・演目・演出 ・脚本 ・公演の長さ において521人(複数チョイス)から高評価をいただく。 また、 ・演目においては 「とつとり伝統芸能まつり」は「とても満足258人」「満足255人」と答えていただいたように質が高いと評価されている。	<b>達成</b> 昨年に比べて、全体的に質が向上していた。県内団体の中には、まだまだ質の面で向上の余地がみられるものもあるが、今後に期待したい。満足度は演目の質もさることながら、全体的な構成の質が高かったことも評価向上に寄与していると思う。
		伝統芸能の地元自治体との連動。 この度は、鳥取市・琴浦町・倉吉市・日南町の伝統芸能担当課および、観光課と共同して、伝統芸能とその地域のPR映像を作成・上映	<b>達成</b> 大きな労力を要したが、PR映像の制作過程において、あえて、その映像の素材を地元自治体にお願ひし、共同して作り込むことにより、自分たちの地域の宝である伝統芸能と文化を改めて認識していただき、地元自治体により踏み込んでいただくことができた。	<b>達成</b> 上演される伝統芸能を育んだ地域を、映像で紹介するというのは良かった。地元自治体との連携を深めることで、市町村の「地元の宝」への意識向上にもつながると思う。継続してほしい。
拡大	県民の文化活動支援	公演前において、その地域の特徴などをイメージ映像によって芸能と地域の繋がりに興味を持っていただき、ホールではなくその地域に行ってみてみたいと思っただくようにする。	<b>達成</b> 当日の映像の上映により、その芸能の地域の魅力の紹介と、芸能のバックボーンを知っていただくことで、その地を訪れたいような演出づくりに努めた。	<b>概ね達成</b> 地域PR動画は、例えば赤碕の「碕」の字など、何カ所か誤字があった。せつかくの良い取り組みなので、制作時にもう少し確認をしっかりとしてほしい。



<p style="text-align: center;">拡 大</p>	<p style="text-align: center;">県民の文化活動支援</p>	<p>高校生ボランティアを広く公募し、県民に文化活動に触れる機会を提供。 昨年、80名 今年も倉吉ということと、期末テストとかぶっているの、20名程度を目標とする。</p>	<p><b>達成</b> 倉吉総合産業、倉吉東、倉吉農業、鳥取中央育英高等学校の4校より40名参加。先生も1名参加。</p>	<p><b>概ね達成</b> 高校生ボランティアの活躍は、当事業のいわば名物であり、今回も活躍していた。残念なことに高校生ボランティアに指示が行き届いていない場面を何度か見かけた。ボランティアとはいえ、来場者にとっては運営側スタッフのひとり。しっかりと事前指示が必要。(詳細は課題に明記) 公募についてはどのような方法で行っているのか。地元の高校だけなのか。</p>
		<p>県外・海外の優れた芸能と県内芸能とが交流することで、継承や・技術の向上などや留意点の改善につなげていく。 交流会参加者数 昨年40名 今年50名目標 評価 当日その場でのヒヤリングと以降の交流実績を確認する。</p>	<p><b>達成</b> まつり終了後の交流会において、県内、県外、海外の出演者の方々がお互いに自分の地元「是非来てください」とアピールをしていた。これは、新たな交流の芽生えであり今後、行き来できるようつながりに発展することを望むが、今回の交流会参加者は51名。翌日、平日ということもあり、県内団体の参加が少ないのが残念であった。</p>	<p><b>一部達成</b> 交流会の参加人数としては目標をクリアしており、達成としたいところではあるが、交流会で最も求められるのは、県内団体の他団体との交流促進による今後の発展である。県内団体の参加者が少なかったことは大変残念であり、その意味では交流促進による継承や技術向上につなげるという目的を「達成」できたとはいいい難い。県内団体の交流会への参加を増やして意識向上につなげてほしいという今後の期待を込めて「一部達成」とする。</p>
	<p style="text-align: center;">県民への鑑賞機会の拡大</p>	<p>魅力ある、県外・海外各1団体の芸能団体を招聘し、鑑賞機会の拡大と、文化芸術活動の裾野拡大を図る。</p>	<p><b>達成</b> この度は、県外を富山県「おわら風の盆」、海外を台湾台中市の芸能団に参加いただく。ネームバリューとして「おわら風の盆」は全国区でもあり、集客にも大きく影響があったものと思われる。また、公演の所作も情緒あり、優雅で見事なものであり、県内の踊りの団体はかなり学ぶことがあったものと思われる。そして、台湾は予想以上の公演内容で、おわら風の盆の評価も当然高かったが、それ以上に好評であった。 太鼓の関係者が「すばらしい」と感想を述べられていた。</p>	<p><b>達成</b> 台湾の団体による醒獅鼓舞と龍騰獅躍は質が極めて高く、大変見応えがあった。観客の中には「すごいね。これを観られただけで来たかいがあった」と話していた人もあった。県内団体にも大いに刺激になったと思う。 また、当事業により、県民にこのような質の高い海外の伝統芸能の鑑賞機会を設けたことにも大きな意義がある。 富山のおわら節も、満足のいく質であり、県外の伝統芸能を鑑賞することができる良い機会である。</p>
		<p>広く県民への周知を図るため、様々な媒体を活用した広報を実施し、効果的な広報に努める。 ・チラシ・ポスター・プログラム・折り込みチラシ・チンドン屋・ラジオCM・ラジオ生放送出演・テレビCM(2社)・ホームページ展開(伝統芸能まつりアーカイブス)</p>	<p><b>概ね達成</b> 予算内で出来る範囲の広報に努める。 ラジオ番組「自由ほんぼーおしゃべり本舗」に出演し、番組パーソナリティーとのトークに参加してのPRや、チラシの配布は効果的なところに無駄が少ないように実施。 今回は、県外が53名だったことから、HPなども効果的だったと思われる。</p>	<p><b>達成</b> 開催地である県中部でポスターを何度か見かけた。効果的なチラシの配布は良い取り組みだと思う。アンケート結果をみても、複数回答ではあるがポスター、チラシで知った来場者が最も多く、その成果が出ている。無料催事とはいえ、集客の多さが広報の成功を物語っている。</p>
		<p>ボランティアやちんどん屋で街頭PRを行い、広報の拡充はもとより舞台の外での演出により気運を高めていく。予定では前日・当日。</p>	<p><b>概ね達成</b> 当日、会場周辺でイベントが複数開催されていたため、会場近辺でのチラシ配布等のイベントPRを行った。また、ちんどん屋によって、伝統芸能イベントの雰囲気や本番前からアピールすることで雰囲気・気運を高めることが出来た。アンケートにおいても評価をいただいた。</p>	<p><b>概ね達成</b> 周辺イベントでのPRの姿勢は大いに評価したいが、別のイベント目的で来ている人に対しての広報効果としては絶大とはいいい難いだろう。ちんどん屋は、年配の方には懐かしさがあり、若い方には珍しさがあると思う。伝統芸能まつりの定番になれば望ましい。</p>

育 成	人 材 育 成 (指 導 者、後 継 者 等)	若い世代に出演参加をしていただき、モチベーションアップ・技術向上を狙う。出演している青少年の人数と青少年がメンバーとなっている参加団体数の増加。	<b>概ね達成</b> 予定通り、芸能は3団体、31名の参加となった。 昨年より多くなっており、伝統芸能まつりのようなハレ舞台での公演や、各保存会の取り組みも少しづつであるが成果を出していると思われる。	<b>概ね達成</b> 逢東踊りなど、子どもの出演もあり、伝統芸能の継承について、他団体への刺激にもなったと思う。青少年を含む団体への積極参加に取り組まれたのか、結果的に青少年メンバーの多い団体の出演がたまたま今年多かっただけなのかが分からない。
		若い世代に「まつり」の進行・運営に関わっていただき、興味を持ってもらい、後継者やサポーター育成に繋げていく。高校生ボランティアにイベント運営に携わってもらう。ボランティアの人数と参加高校数 昨年、6校/80名 今年は倉吉ということと、期末テストとかぶっているの、3校/20名程度を目標とする。	<b>達成</b> 前日に準備とシュミレーション/当日は受付・会場係・舞台係と設営・撤去を行う。今年は若干学校数の少ない、倉吉ということと、期末テストとかぶっていた為、昨年の80名には及ばなかったが、逆にそれだけ内容の濃い業務に参加いただき、目的でもある、「高校生に地域の宝である伝統芸能を知ってもらい、イベントのプロフェッショナルと一緒に作業をすることによって職業意識の向上と、あとは、仕事とおもてなしすることを楽しんでもらう」ということにおいては達成できたと思われる。 この子たちが今後、伝統芸能に興味を持ち、継承に関わってくれることを強く望む。最後に記念写真を司会者や大人スタッフと一緒に撮って、全員笑顔で帰っていた。また、来場者からも高い評価をいただいた。	<b>概ね達成</b> 若い世代の参加人数増加も大切だが、参加後の声も聞きたい。 高校生ボランティアは丁寧な対応で頑張っていた。事前指導もしっかりされていたようではあるが、一方で臨機応変な対応をせまられる場面ではボランティアへの指示不足がみられた。 過去に伝統芸能まつりのボランティアに参加した高校生が、その後、伝統芸能にかかわっている実績があるのか、単に高校の必須ボランティア活動のひとつとして、当事業が選ばれているのかで大きな違いがある。今後、若者が何らかの伝統芸能に関心を持ち、参加してくれるか、継続した経過をみたい。
		若い世代に広く伝統芸能を鑑賞いただき、興味をもってもらような工夫を行う。PR先を学校やショッピングモールなどの、若い世代が交流しているところにも発信する。 ボランティア参加している学校で生徒に告知。 ショッピングモールイベントにおいて告知。	<b>概ね達成</b> クルーズ客船のお迎え-お見送りイベント、丸京製菓イベントやイオンモールなどにおいて、花笠踊り、田植唄、荒神神楽太鼓、がいな太鼓、がいな万灯などを公演。大勢の若い方々や海外の方々に観覧していただき、大いに楽しんでいただき、「とっとり伝統芸能まつり」をPRする。 即、とっとり伝統芸能まつりへの、若い世代の集客にはつながらないが、若い世代も大勢その公演に参加しているの、多くのハレ舞台を踏んでいくことによって、技術向上とモチベーションアップにつながっていく。	<b>達成</b> イオンモールなどでのアウトリーチPR活動などを通して、認知度向上に寄与したと考えられる。 昔、伝統芸能は身近な存在だったはず。なぜ廃れていったのか？その原因を考えながらさらなる企画を期待したい。
	子どもたちに参加してもらうことで、伝統芸能への興味喚起を図る。 参加人数と団体数 昨年12名 1団体 今年目標 31名 3団体	<b>概ね達成</b> 予定通り、芸能は3団体、31名の参加 また、高校生ボランティアにも出来るだけ公演を観覧できるよう業務分担の工夫を行った。	<b>達成</b> 昨年を上回る子どもの参加を実現している。子どもたちが大舞台を踏む機会となり、今後の継承につながる。他の地域の芸能を見ることで、良い意味で比較したり、刺激になったりすることと思う。各団体のインタビューの中で、後継者がいないという話があったが、多様な芸能を存続させるためにも、そういった団体への働きかけで、子どもの参加の増加、すなわち後継者育成が必要だと感じた。	
	総括	85.2%	83.3%	

### 【成果】

- ・司会のテンポの良さと映像による紹介で、地域に伝わる伝統芸能の様子がよく分かった。
- ・アンケート回収率が目標に一步及ばなかったのは残念だが、35%以上の回収率があれば観客全体の意見、傾向が把握できる。入場者数も目標を上回った。

・開場5分前に、入場待ちをしている来場者に事前にパンフレットを配布し、入場時の受付の混雑緩和を図るなど、来場者目線の配慮が行き届いていた。

・全体的には海外や県外団体の質、子どもを含む若者の参加など、運営面も含めて総合的に素晴らしい事業であった。

#### 【課題】

・高校生ボランティアは頑張っていたが、さらに事前指導や指示をしっかりと行うほうが望ましいと感じた。例えば開場時に車椅子の入ってくる1階上手側のドアを開けておくほうが入場者には入りやすいのだが、いちいちドアを閉めていた。「扉を開けておくほうが車椅子の方に親切ではないですか？」と声を掛けたのだが「自分では判断できません」との回答であった。また、開場して入場待ちのお客様がいなくなっても、ロープパーテーションがそのまま、新たにきた入場者は無駄に長い距離を歩いて受付に行っていたが、高校生には臨機応変な対応はできないようであった。(これについては途中でスタッフがやってきてロープパーテーションを開け、すぐに受付に行けるようにしていた)。高校生ボランティアは、どうしても受身になりがちなので、スタッフの目が届かない場所は、想定される内容について、あらかじめ指示をだしておくほうが来場者が気持ちよく入場できるのではないかと。さまざまなことが想定されるので、難しい面もあるだろうが、さらなる事前指導や、判断できない事案がある場合は、どのスタッフに連絡すればよいかを徹底することによって、より良いボランティア活動になることを期待する。

・県外、海外の団体は、極めて質の高いところを招聘しているのだろうから、ある意味当然なのだが、県内団体との質の差が大きい。後継者不足で稽古もままならない団体もあるだろうが、質の高さによる感動が「自分もやってみたい」という意欲につながるのではないかと。当事業も次回で8回目となる。単なる発表の場ではなく、質の向上につながるためのさらなる工夫に取り組んでいく時期にきている。

#### 【その他事業に関する意見、感想など】

・当事業は内容や質も向上しており、関係者の努力が身を結んできていると感じる。海外団体の招聘にはかなりの費用がかかっていると思うが、アンケートにもある通り入場料を徴収してもいい事業である。検討してみてもどうか。(ただし、これまで無料のものなので、最初はハードルを下げるために、たとえば500円とか、なるべく安く設定するほうがよいと思う)。

・司会はテンポよく進行しており、総合的には良かったが、琴浦町の光(みつ)集落を「ひかり」と読むなど、いくつか間違いがあった。地名など読みにくいものは進行台本にルビを振っておくほうが望ましい。また男性司会者のべるをさんは、台本通りの部分は大変聞きやすいのだが、アドリブで会話している時は、早口な上に自分の口の中でしゃべってしまい、聞き取りにくかったのが残念。司会については、ちょっとしたアドバイスで十分改善されると思う。



「因幡の傘踊り (鳥取市)」



「醒獅子舞 (戦鼓)・竜騰獅躍 (台湾台中市)」



「福栄かしらうち (日南町)」



「富山県民謡越中八尾おわら節 (富山市)」

第60回鳥取県美術展覧会(鳥取県地域振興部文化政策課)

平成28年9月17日(土)～10月30日(日) 鳥取県立博物館ほか

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	版画部門の版種をキャプションに明示することで様々な技法の存在や魅力を広めます。	<b>概ね達成</b> 版種をキャプションに明示することで様々な技法の存在や魅力を観覧者に提供することができた。鑑賞者からは、版種を明示することで形式・技法が明らかになり、作品に対する理解が深まるとの声が聞かれた。	<b>概ね達成</b> 目標とするキャプション表示は、100%達成であり、より鑑賞者の興味を呼び起こすことにつながったと思われるものの、キャプション表示による効果(様々な技法の存在や魅力を広める)が、客観的な数値化指標がないこともあって不透明である。書道部門における「釈文」のようにアンケートの問いに、キャプションの明示についての評価を加えてはどうか。
		書道部門において、従来は額装作品(篆刻含む)の出品のみ可能であったが、今年度から卷子・帖も出展可能とし、より幅広くに書道作品の魅力を広めます。	<b>達成</b> 今年度からの企画であり、卷子・帖の作品は各1点と出展数はわずかではあったが、卷子作品が県展賞を受賞するなど、高いレベルの作品が出展された。今後、浸透していくことで、より出展数が増えることも見込まれ、書道作品の魅力の幅を広めることにつながるものと考え。	<b>達成</b> 出展できる範囲を拡大したことに応じて、対象の作品の出展があった。加えて、県展賞を受賞するなどレベルの高い作品が出展されたことで書道部門の魅力の幅を広めることにつながった。
創造	質の高い文化芸術活動	審査の透明性を確保し、優秀作品に県展賞・奨励賞を授与します。	<b>達成</b> 事前に審査基準を定めるとともに、審査を公開し、その見学希望者を開催要項により募った。また、出品者への審査結果の通知、運営委員の審査の立会など、審査の透明化に努め、公正に優秀作品に県展賞を授与した。	<b>概ね達成</b> 審査の透明性の確保のため、公開審査は有用なので継続して実施してほしい。部門によっては、審査の見学者が0名となっており、見学者を増やす努力も必要。
		作品陳列を審査員に依頼することで展示方法に統一性、芸術性を持たせ、展覧会としての魅力を向上させます。 【目標数値】アンケートでの「特に満足したもの」として展示方法選択率25%以上	<b>一部達成</b> アンケートでの「特に満足したもの」として展示方法選択率は22.3%にとどまった。	<b>一部達成</b> 来場者に対するアンケート結果では満足と評価した者の展示方法選択率は、ほぼ目標とした25パーセントに近いものとなった。一方で、「特に工夫した方がよいと思うこと」では展示については、「その他」に次いで2番目に多い結果となっている。展示の何について特に工夫が必要か定かではないが、アンケートの問いにどのような点で工夫が必要なのか等の自由意見欄を設けるなどにより改善点の発掘を期待したい。
		展覧会の伝統を守り、来場者の満足度を維持・向上させます。 【目標数値】アンケート問①で「とても満足」「満足」の合計回答率92%以上(第59回:92%)	<b>達成</b> アンケート問①で「とても満足」「満足」の合計回答率92%以上(第59回:92%)→93.4%となり目標数値を達成した。	<b>達成</b> 鑑賞者に対するアンケートの満足度は前年度を1.5ポイント上回り、このうち「とても満足」と答えた者は20.5%から24.1%と3.6ポイント増加した。種々の工夫によるものと評価する意見のほか、評価委員からはアンケート回収率が入場者の1割程度と少ないことから鑑賞者全体の評価と受け取ることを疑問視する意見もあり、今後更なるアンケート回収率の向上に取り組んでほしい。



	県民の参画支援	<p>会期中の全ての来場者に対して、受付でアンケートの協力をお願いすることで回収率を向上し、県展の運営に県民の意見を積極的に取り入れます。</p> <p>【目標数値】 アンケート回収率 21% (第59回 20.89%)</p>	<p><b>未達成</b> 昨年度、回収ボックスの位置を目立つ場所に変えたり出入り口で声かけを行うことによって回収率が格段に向上したため今年度も同様な対応を行い回収率アップに努めたが、目標数値を下回る結果となった。多くの県民の意見を傾聴・検証し次年度以降の開催に繋げていきたい。【H26: 8.3% → H27: 20.9% → H28: 13.6%】 【館別回収率】県立博物館: 18.9%、米子市美術館 10.6%、日南町美術館 9.2%</p>	<p><b>未達成</b> 平成26年度の8.3%から27年度には20.9%と格段に向上したが、今年度は目標を大幅に下回った。会場別では、鳥取会場が昨年を2.5ポイント上回ったが、米子及び日南会場では半減となり、実地検証の評価委員からは声かけがなかったとの意見が聞かれた。自己評価に記載のとおり、多くの県民の意見を傾聴、検証し次年度以降の開催に繋げていくためにも、今年度の検証をしっかりとお願いしたい。</p>
		<p>県展をより身近に感じていただくため、キャッチフレーズを設け、チラシ・ポスター・開催要項に明示することで県民の参加を促します。</p> <p>【目標数値】 出品数 650点(第59回 636点)</p>	<p><b>一部達成</b> 昨年に引き続きキャッチフレーズを設け、ポスター・チラシもデザインを統一するなど馴染みやすいものとするよう努めたが、目標数値を下回った。 【実績値】629点(第59回 636点)</p>	<p><b>一部達成</b> 第60回という節目の県展ということであったが、インパクトのあるPRができなかったのではないかと。出品数は5年前の676点に比して629点と漸減傾向で、一般応募者によるものも556点から515点と低落状況にある。出品数の増加方策について抜本的に検討し直す必要を感じる。</p>
拡大	県民の文化活動支援	<p>本展以外の巡回展会場においても、ギャラリートークを行うことにより、受賞作品に対する理解を深めます。</p>	<p><b>概ね達成</b> 各会場(倉吉展除く)ともギャラリートークを実施、今年度はポスター、チラシにも掲載することでギャラリートークにおける参集に努めた。ギャラリートークへの参加者が少ないことが懸案であったが、今年度は作品搬入時に全ての出品者へギャラリートークの案内チラシを配布することで、各館とも概ね盛況であった。</p>	<p><b>概ね達成</b> ポスターやチラシにギャラリートークの日程を記載したり、出品者全員に案内チラシを配布するなどの取り組みは評価できる。各会場でのギャラリートークは概ね盛況であったとあるが、参加者数等は定かではなく、今後数値化目標とすることについて検討を期待したい。また、委員から別部門のギャラリートークと時間が重なっていることについて改善を求める意見があったので検討を望む。</p>
	県民への鑑賞機会の拡大	<p>書道部門において、作品と一緒に釈文を展示することによって、県民の作品鑑賞を支援します。</p> <p>日本海新聞へ社告・記事・全5段広告などを複数回掲載するとともに、HP、チラシ、ポスター、県政だよりによる充実した広報を行い、より多くの方への周知に努めます。また、受託業者である日本通運株式会社鳥取支店内部においても県展の魅力をPRすることで、その関係会社等にも関心を深めていただきます。</p>	<p><b>達成</b> 昨年度からの取り組みである。釈文票についてのアンケート評価で「あった方がよい」という回答も昨年度より多くなっていることから引き続き実施していく。 【H27: 83.9% → H28: 86.7%】</p> <p><b>達成</b> 新聞等による広報の充実を図り、入場者増に努めた。記事として掲載した、数点セレクトした作品の美術家による解説の評判が良く、鑑賞意欲の向上にも繋がったのではないかと考える。 【H27: 6,479人 → H28: 7,695人】</p>	<p><b>達成</b> アンケート結果において釈文についての取り組みを評価する者が86.7%と多い。今後とも継続して実施されたい。</p> <p><b>達成</b> 来場者アンケートにおいて県展を何で知ったかの問いに新聞・ミニコミ誌等と回答した者は41%と多く今後も新聞等による周知を継続していくことは必要。一方で、来場者は20歳代4.2%、30歳代6.6%と若年層の割合が低いのが実情であり、SNS等の活用による周知も課題ではないかと。</p>

育成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	県内高等学校等に出向き、美術担当教員を通じ、鑑賞を推奨いただくことで若年層の取り込みを図ります。 【目標数値】 40代以下の鑑賞者 25%（第59回 21.9%）	<b>概ね達成</b> 県内全ての高等学校等に働きかけを行い、出向いてPRを行った。目標値を下回ったが、デザイン部門で中学生が初入選し新聞に掲載されるなど手応えを感じる話題もあった。引き続き若年層に興味関心を持ってもらうよう働きかけていく。 【実績値】40代以下の鑑賞者 23.5%	<b>概ね達成</b> 40歳代以下の入場者数は24%と目標値をやや下回ったが、昨年度の22%から2ポイント向上した。 県下の全校を訪問するなどの取り組みは評価でき、高校から大学や小・中学校への働きかけ拡大についても検討していただき引き続き若年層の出展、入場者増加対策を行ってほしい。
		総括	69.7%	66.7%

### 【成果】

- 平成28年10月21日に発生した鳥取県中部地震のため倉吉会場での開催が中止になったことにより、4会場から3会場での開催となった。このためもあって、入場者数は3会場で7,695人と目標とした9,000人に届かなかったものの、1日当たりの入場者数は、目標とした225人(9,000人÷4会場会期40日)に対し296人と、71人増となり目標を大幅に上回った。この要因を分析し、次年度以降の取り組みに活かしてほしい。
- 入場者に対するアンケート結果によるいわゆる観客満足度は、93.4%と目標とした95%に僅かに届かなかったものの、平成27年度の91.9%に比して1.5ポイント向上した。

### 【課題】

- 平成27年度の評価委員会報告書においても、「出品者数のじり減と入場者数の減少が県展最大の課題である。」との指摘を行っている。県展への応募者数は5年前の平成23年度の676人に比して平成28年度は629人と年々減少しており、このうち、一般応募者も同様に556人から515人となっており、長期低落傾向が続いている。このまま応募者が減少していくことは、県展としての意義を失わせるものとの恐れがあり、応募者の増加方策について抜本的な検討を促したい。
- 「県民の参加支援」として県展来場者に対するアンケートを実施し、その回収率の向上を数値目標に設定し、平成28年度の回収率を21%と設定したが、実際は13.6%と目標数値を大幅に下回った。
- 会場ごとの回収率も差があり、受付などでアンケート記入に対する協力の声かけがなかったとの評価委員の検証意見もあり、次年度の改善を願いたい。

### 【その他事業に関する意見、感想など】

- 鳥取県中部地震で予定されていた倉吉会場での展示がなくなった。種々問題はあったと思われるが、開催日程を変えての開催ができなかったのが残念。中部地区の入選者数は不明であるが、出展者の意欲のためにも、また中部地区の県展ファン(平成27年度は倉吉会場に1,111人入場)のためにも何らかの形で開催して欲しかった。
- 審査方法について、平成27年度の評価委員会の評価の中でも「課題」として指摘が行われている。今年度の評価委員の中にもその方法を疑問視する意見が存在する。審査員数、審査員の選任方法、審査方法(最高点、最低点のカットなど)等について、他の展覧会等の実態について情報収集を行って改善方を検討されたい。
- 表彰式について、式典受賞者で正装姿の人が余りにも少ない。正装での式典参加を呼び掛けて欲しい。
- ギャラリートークは、日にちや時間をずらすなどし、各部門毎に開くことができるようにして欲しい。ギャラリートークの内容など、鑑賞のしおりとして来場者に配布してはどうか。



文化芸術事業評価シート(とリアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の 拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	幅広いジャンルの文化芸術の鑑賞・体験の機会を提供することで、裾野の拡大を図ります。	<b>達成</b> 【成果】多彩なジャンルのステージパフォーマンス、アート体験ワークショップ、展示などで多くの来場者に文化芸術に触れる機会を提供した。「貝殻節」の創作ステージは斬新な企画であったし、ワークショップは新規参入の団体もあった。また、新たに映画上映企画も実施し、裾野の拡大を図った。	<b>達成</b> ・ワークショップは、指導があつて完成にたどり着けるような、自分だけでは始められないような内容のものが多く、「初めて」をここで体験でき、何かを始めるきっかけになるような、満足感のあるものばかりだった。 ・小学生、高校生の演技、あいサポートとの連携で、幅広い層に訴えかける内容があり、展示物のボリュームもあった。 ・「貝殻節」の創作ステージは斬新で、芸術性も高く「もう一度見たい」と思わせるものだった。 ・映画上映は鑑賞者は少なかったが、映画、映像という新たなジャンルが加わり、今後の企画の広がりにつながる予感があった。
		東部地区の伝統芸能・文化に触れ、その魅力を再発見する企画を実施します。(ステージ、ワークショップ・展示で各1企画以上実施)	<b>達成</b> 【成果】ステージ部門では、「貝殻節」の創作ステージ、子どもたちによる佐治の「巖流太鼓」や「傘踊り」、ワークショップ・展示部門では、「因州和紙による折り紙体験」を実施し、東部地区の伝統芸能・文化に触れる機会を提供し、その魅力を伝えた。	<b>達成</b> ・特に「貝殻節」の創作ステージが素晴らしかった。「ふるさと」と並んで度々演奏や歌唱される「貝殻節」。悪く言えば慣れすぎてしまっているこの文化が、弦楽器、和楽器、日本舞踊を併せ、編曲することで、全く新しいものに生まれ変わっていた。それだけではなく、解説と馴染みの民謡もあり、まさに「貝殻節」を再発見できる内容だった。 ・東部地区の伝統芸能や文化をベースに現代のアレンジを加えるなど工夫が見られた。今後は東部地区に限らず、広く県内の芸術や文化を紹介する機会を作ってはどうか。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	フリースペースを中心に事業全般を集約し、来場者が多様なアートに触れる機会を提供するとともに、にぎわいの創出を図ります。	<b>達成</b> 【成果】フリースペースでワークショップや展示・食企画の実施、展示室・階段踊り場でステージパフォーマンス企画を実施し、来場者がより多くの企画に参加しやすいようなレイアウトとし、にぎわいを創出した。	<b>概ね達成</b> ・ほとんどのイベントがフリースペースに集約されており、その分ボリュームも感じられる。しかし、屋外からは中の活気を感じる要素がなかった。 ・ワークショップの材料やフードコートの食材不足のため、時間帯によっては閑散としていた。 ・こもればステージでの参加型イベントはオープンな雰囲気でも参加がしやすい。オープニングの傘踊りでは、参加を客席に促した際、進行に違和感を感じない程度の短時間でステージに上がっていた。

	<p>来場者が気軽にアートに触れることのできるよう、特に障がいのある方への配慮・工夫を行います。</p>	<p><b>概ね達成</b>  <b>【成果】</b>事業全般を一階に集約し、かつ導線を確保することで、障がいのある方でも参加しやすいよう配慮を行った。  <b>【課題】</b>一部ワークショップスペースでは、ブース間の間隔が狭く、車いすの移動には不便であった。また、どこで・どの時間・どのような企画があるか、案内が不足していた。当日パンフレットの構成や看板の増設など、充実させる必要がある。</p>	<p><b>概ね達成</b>  ・ステージイベントのタイムスケジュールを、時間軸で案内するタイプのものも掲示してあった方が見やすいのではないかと決めているお客様にはこれで良いと思うが、これだけだと、今何をやっているのかがわかりにくい。  ・スタッフが多く配置されており、丁寧な対応の印象。  ・東部は障がい者アートの紹介についても積極的にやってきたこともあり、鑑賞者としても多く参加しているようだったが、ワークショップスペースは車椅子だと通路が狭い様子だった。</p>
	<p>紙媒体、SNS、マスクミなど、多様な媒体を活用した広報を行います。また、商業施設と連携したイベントを実施し、情報の発信に努めます。</p>	<p><b>概ね達成</b>  <b>【成果】</b>Facebook を中心とした SNS から折り込み広告まで幅広い広報活動を行った。イオン鳥取北店と連携したイベントを実施し、とりアートを知らない方へのPRができた。また、例年よりチラシ・ポスターの作成、配布を前倒しし、早期の情報発信に努めた。  <b>【課題】</b>多様な媒体で広報はできたが、その効果が十分に出ているか検証し、より有効な広報手段で情報発信する必要がある。</p>	<p><b>概ね達成</b>  ・アンケート結果では、9月11日(日)に行われたイオン鳥取北でのPRによる来場者は3人だったが、このイベント時に行われたラジオ体操の曲で季節を表す日本舞踊の演目では、その舞の斬新さから、来店客の多くが足を止めて見入っていた。11月の開催日と期間が大分離れていることもあり、それによる来場にはつながらなかったかもしれない。しかし、商業施設で不特定多数に訴えかけることのできるイベントは、アートの裾野を広げることにつながっていると思われる。  ・これまで来場理由や参加理由に「ロコミ」が多く占めていたが、ポスターチラシを見て来場した客が増えており、早期情報発信の効果が表れている。また、内容を評価する客が増えている。  ・東部地区の facebook は、とりアートのページでリンクが貼られていないので、知っている人しか見に行かない。またリンクの貼られているとりアートの facebook に至っては全く活用されていない。広報費用に限られているので、このような費用のかからないツールから見直すことも必要かもしれない。投稿記事は、もう少し内容が伝わるような画像の掲載もあると良いのではないかと。会議や準備、PR ツールの画像が多くを占めているので、ワークショップで作るものの紹介や音楽や踊りであれば練習風景の一部を動画で紹介したり、開催が近くなったら魅力や出演者をアナウンスするなど、もう少し動きのあるもの、ビジュアルに訴えかけるような投稿もあると良いと思う。また、出演団体ごとにPRのネタを原稿として提出してもらえば、投稿数も増え、各関係者の情報がアップされていけば、その分閲覧者も増えると思われる。  ・各年代層によって、閲覧する媒体が多様なので、SNS や紙媒体など、今後も様々な手段で訴えかけていった方が良いと思う。</p>



<p>頂点の伸張</p> <p>頂点の伸張</p>	<p>県内の文化芸術の質の向上（事業の質の向上）</p>	<p>分かりやすい事業コンセプトを設け、様々な形でイベント内容に反映させることを目指します。</p>	<p><b>概ね達成</b>  <b>【成果】</b>出演者や実施者がコンセプトを意識してそれぞれの内容を構成した。また、「和モダン」というテーマにした会場全体の統一感が高く、観客が和装で見歩きたくするような会場づくりができた。  <b>【課題】</b>公募企画においては、コンセプトに沿うような企画を実施する団体がある一方、例年と変わらない企画を実施する団体もあった。</p>	<p><b>概ね達成</b>          ・「きづく、はぐくむ、まじわる」という大きなコンセプトは少し漠然とし過ぎている。「和モダン」という共通のイメージが設けられており、全体的にまとまりを感じたが、もっと明確な、大胆な演出を行っても良いのではないかと。          ・例年と変わらない企画を実施する団体は、アイデアが浮かばなかったのだろうか、それとも企画意図が理解できていなかったのだろうか。          ・華道の企画もあると良いと思う。</p>
		<p>出演者へ準備・運営・撤去作業への参加を促し、事業に関わる全員でともに創りあげる事業を目指します。</p>	<p><b>概ね達成</b>  <b>【成果】</b>準備、撤去共に委員だけでなく、多くの出演者・ボランティアに参加していただき、スムーズに行うことができた。  <b>【課題】</b>出演者へ参加を促して行く部分では、案内不足な部分も多かった。</p>	<p><b>概ね達成</b>          ・クロージングイベントは多くの出演者で盛り上げた方が良いと思う。          ・アンケートから出演者の満足度が高い様子。良い関係を築きあげられたのだと思う。          ・搬入、搬出がスムーズだった。</p>
	<p>県民ニーズの把握</p>	<p>来年度以降の事業改善とレベルアップのため、アンケート回収率向上に努めます。（目標：2,500枚配布／500枚回収）</p>	<p><b>未達成</b>  <b>【成果】</b>アンケート提出者にはプレゼントを準備するなどアンケート回収率向上に努めた。  <b>【課題】</b>総合案内や会場出入口での回収の呼びかけが十分でなく、目標の達成には至らなかった。回収率向上には、もうひと工夫必要である。アンケートプレゼントの効果についても検証が必要。</p>	<p><b>未達成</b>          ・他の地区に比べ、アンケートの回収率の低さが気になった。改善のための検証が必要。          ・アンケートを書きやすい空間を設けるなど、呼びかけだけでなく、工夫する余地がありそう。</p>
		<p>県内で活躍する文化活動者を招聘し、地域の良質で上質なアートの提供を目指します。</p>	<p><b>達成</b>  <b>【成果】</b>「貝殻節」創作ステージ、「ライブペイント」、「竹灯ろうワークショップ」など地域の元気な活動者を招いて、イベントを実施することができた。全体的に出演者・参加者の各内容はレベルアップしており、良質・上質な企画を提供できた。また小ホール企画「LiveCafeとリアート」では、メイン事業とも連携し、非常に質の高い企画を実施することができた。</p>	<p><b>達成</b>          ・来場者アンケート結果からも演奏・歌唱・演技等の質に満足感を得られている。「貝殻節」創作ステージ、イラストレーターによるライブペイント、ジャズなど県内在住で活躍するプロによる演目が多数あった。          ・ワークショップも制作しごたえのあるものが多かった。          ・県内にはまだまだ多くの活動者が存在するので、新しい発掘や、その人だからこそできる企画と合わせて創り上げると面白いものが生まれそう。</p>
	<p>良質な作品の提供</p>	<p>委員会と実施者が事業主旨などを共有し、同じ目標に向かって推進することで質の向上につなげます。</p>	<p><b>一部達成</b>  <b>【成果】</b>全体会議を設けて出演者と委員全員が集まる機会を作り、事業主旨を共有できた。  <b>【課題】</b>委員会と実施者との温度差を感じる部分が多く、連携／連絡不足もあり、全体が一枚岩と言えるような目標意識を共有するまでには至らなかった。</p>	<p><b>一部達成</b>          ・全体会議を行い、目標の共有を図った点は評価できるが、意志の統一がとれなかったのは残念。          ・クロージングイベントへの協力体制具合でも明らかだったが、公募の出演者はどこかお客さんのスタンスに感じた。今回のオープニングのにぎやかな傘踊りのように、クロージングでも一体感を感じる何か仕掛けが必要だと思う。</p>

人材育成	活動者 (指導者、後継者、担い手)の育成	地域や教育機関と連携し、これからの鳥取の文化芸術を担う若年層の出演・参加・来場を促し、次世代の育成を目指します。	<b>達成</b> 【成果】地域、学校と連携し、小学生や高校生のステージ、さらに高校生が小学生に対して行うワークショップとステージ発表など、子どもたちが主役となって活躍できる場を作ることができた。結果、次世代のアートの芽を育むことができたと考える。	<b>達成</b> ・小学生、高校生のステージは大いに盛り上がり、内容も惹きつけられるものだった。高校生が小学生に対して行うワークショップの企画は「音楽」をツールに普段関わりの少ない年代同士の交流にもつながり素晴らしいと感じた。そういった流れが美術、工芸などの分野でも広がっていくと良い。 ・高校生の活躍は目立っていたが、中学生や大学生の年代が少ないと感じた。
	鑑賞者の育成	性別・年齢・障がいの有無に関わらず、あらゆる人たちが参加できる事業を実施することで、アートに触れるきっかけを作ります。	<b>概ね達成</b> 【成果】小学生や高校生のステージや、障がい者の方のステージ、展示などを通じて、障がい者の方々や子ども連れから高齢者まで多様な来場者があった。様々な企画が同時に実施できる地区事業ならではの良さ。 【課題】アンケート結果より、幅広い年齢層の来場はあったが、男性の来場者は、昨年より減少していた。毎年対策を施してはいるが、さらなる検討が必要である。	<b>概ね達成</b> ・来場者の性別に偏りがある。 ・中高生は実施者だけでなく、鑑賞者数も増えるような企画があると良い。また、アンケート集計の20歳以下の部分を10歳以下と20歳以下に分けたほうがより把握できると思われる。 ・小学生以下の子どもが親子で楽しめるような企画や、美術部の大学生が出演する企画があれば、より来場者に幅が生まれると思われる。 ・あいサポートのアート展示は量もあり、華やかで季節感を感じさせるものに溢れていた。
人材育成	支援者の育成	様々な業種の方や企業と連携することで、地域のアートを支える支援者の拡大を目指します。	<b>概ね達成</b> 【成果】バイク展示、福祉施設の作品展示など、多くの団体の協力を得て多面的なイベントづくりを行うことができた。今までとりアートとして関わったことのない方々にも少しずつではあるが、支援(協力)の輪が広がっている。 【課題】一般企業との連携は多くは行えなかった。作品展示や物品調達のためにどのような連携が図れるのか再度検討が必要である。	<b>概ね達成</b> ・これまで出展のない分野に協力を依頼したり、一般企業からはすでに存在するものを展示したり、調達するだけでなく、県内在住アーティストとのコラボレーションを企画して新しいものを生み出す(例えばコラボレーションし、広告やパッケージを作ってみる)など、掛け合わせて新しさを生み出すと良いかもしれない。 ・終日開催事業のため、フードコートの充実が欠かせない。 ・バイク展示は非常に面白いが、さらに踏み込んでバイクの歴史、文化、デザインなどを紹介するような内容があるとさらに楽しめる。 ・イオンモールでの取り組みは、買い物客が自然な形で参加でき、活気があってよかった。
総括			71.8%	69.2%

### 【成果】

- ・今回の貝殻節の素晴らしいステージのように、伝統文化をストレートに伝えるだけでなく、コラボレーションすることによって新しいものが生み出していくことは、とりアートにとって価値のあることだと思う。県内で活動する個々が一堂に会せるこのイベントなら、マンネリ化した文化を思いもよらない組み合わせで、アレンジして再注目、再発見していく。
- ・集客は大変なことであるが、目標にほぼ近い数値が出ている。
- ・文化や芸術の活動者の発表の場として、また鑑賞者として様々な芸術や文化に触れる機会としての意義は大きい。

### 【課題】

- ・クロージングイベントのギャラリーが少なく、寂しく終わっていく印象があった。ベリーダンスのパフォーマンスまでは観客も多少いたが、終わると同時に一気に引いていった。その後の委員長の話、西部地区アートマネージャーへのフラッグ引き継ぎでは、ステージを見ている人は事務局の少数程度。着物の団体はクロージング会場を横目を通り過ぎて、控え室へ向かっていくだけ。他出演者も片づけに一生懸命の様子。一般のお客様を最後の最後まで留めることは難しいが、せめて出演者はステージの周りに集まって最後まで見守っても良かったのではないだろうか。日中のイベントが素晴らしかった分、尻すぼみに感じた。アートを盛り上げていこうという団結力を、ラストで見ることができなかったことは残念に思う。
- ・パンフレットは時系列でのスケジュールも掲載すべき。いつ行われるのかピンポイントで探にくい仕様であった。

### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・ワークショップのタイトルを各ブースで出しているところはわかりやすいが、紙が貼ってあるのみだと埋もれてわかりにくく感じた。オリジナル感も残しつつ、ある程度共通の規格の看板があると目に留まりやすいかもしれない。
- ・「ワークショップ小鳥屋」さんのイベントは、都合が悪くなり中止とのことであったが、そのアナウンスをプログラムが掲示されている「小鳥屋」さんの部分に貼り紙してあるとわかりやすいと思う。
- ・ワークショップ「インスタグラムであそぼう！」で撮った画像をアップしてもらえば、PRにもつながり、良い取り組みだと思う。毎年続けていくうちに、過去のビジュアル記録も残る。せっかく写真家が開いているワークショップなので、うまい撮り方の指導もあれば、一歩踏み出せるのでは。
- ・こもればステージで催されている最中に、お客様が通路として通っても良いのか、いけないのか迷っている様子だったので、通っても良いなら、ステージ中にも通れるくらいのスペースをパーテーションで作っておくと良いかもしれない。
- ・パンフレットは、全て並列だったので今回のイチオシイベントを目立たせるなど、アクセントがあると良いと思う。また来場客には「自主」と「一般公募」の違いや意味は分からないし、気にならないと思うので、その括りで大きく分ける必要はなく、示めすなら、タイトルの横にマークをつける程度で良いと思う。
- ・音楽、舞台は充実しているが、その他の美術、写真、書、工芸、華道など、部活動が盛んな高校や地区内に2つの大学がある利点を活かし、幅広い芸術展となると来場者ももっと楽しめる。
- ・とりアートシネマ「オハイエ」は良い作品だっただけに、鑑賞者が非常に少なくて残念(鑑賞者6名程度)。魅力をうまく紹介するなど案内の工夫が必要。



第14回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2016 西部地区事業(西部地区企画運営委員会)

平成28年11月19日(土)・20日(日) 日野町文化センターほか

文化芸術事業評価シート(とリアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	西部地区事業コンセプト「いつものまちで文化する！」を継続・発展させ、「もリアート、まちアート、うみアート、ここでアート」をテーマに、西部地区の地域を複数年ごとに巡回しながら実施することで、西部地区全体での事業への参加機会を提供する。本年度は、「もリアート」とし日野郡日野町にて開催する。※①	<p><b>概ね達成</b></p> <p>・地域での開催は、集客力の面でリスクがあったが、当初計画のとおり日野町において2年連続開催したことにより、「とリアート」の周知ならびに文化芸術に触れる機会を多くの方に提供することが出来た。また、地元の関係者、住民の声より、一定程度の評価を獲得できたこと、米子市を含む他の地域からの実施者の参加人数が昨年より増加したことは、一つ前進であると考え。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>開催地の巡回は、集客面や規模などのリスクもあるが、多くの人々にイベントを知っていただくという意味では評価できる。ただ展示部門を分けるなどチャレンジングであった昨年に比べ、全体としてこじんまりしてしまったような感があった。地元の関係者、住民の声より、一定程度の評価を獲得できたことで日野地区での周知にはなったかもしれないが、とリアート西部地区自体の認知度が向上したかはわからない。</p>
		各地域で複数年実施することにより、地域の特徴を掘り出し、地域ごとに特色を持った運営方法や企画を実施し、西部地区全体で文化に触れる機会を提供する。本年度は、生きいき”ひの“ふれあいまつり、日野郡新そばまつりとの同時開催により、広範の人に気軽に文化芸術に触れる機会を提供する。※②	<p><b>概ね達成</b></p> <p>・地域に根ざしたイベントと同時開催したことにより、会場を訪れる年代層はやはり高齢者層が多いが、小さい子どもを連れた若い夫婦や他のイベントに来場された方にも気軽に文化芸術に触れられる機会を作ることが出来た。やはり、市街での開催と比較すると、来場者は少ないが、引き続き周知への取り組みを行っていく。</p> <p>・米子市を含む他地域からの実施者の参加は増加したものの、当該地域からの実施者としての事業への参加や連携企画は、一部に留まった。しかし、サテライト企画では、日野町の文化・歴史を知る機会を提供するなど、地域性を活かした企画、プレ企画では、日野高校生との交流企画なども実施することが出来た。引き続き、地域の特徴を掘り出し、地域の特徴を持った企画の立案、実施を行っていく。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>複数年の開催は地域の特徴を掘り起こすには適した戦略だった。また、そば祭りとの共同開催は人口の少ない地域での集客力の増強に寄与した一方で、とリアートとしての認知度が隠れてしまった面もあるかもしれない。また会場には子供連れでの参加も多く見られたが、他の地区に比べ子供の参加できる企画が少なかった。</p>
	生きいき”ひの“ふれあいまつり、日野郡新そばまつりとの同時開催に併せ、本年度はステージパフォーマンスだけでなく、展示・ワークショップ部門を拡充し実施する。	<p><b>概ね達成</b></p> <p>・昨年は、同時開催にあたり、運営面を考慮し、別日程で開催した展示・ワークショップ部門を自主企画事業、公募企画事業ともに同日程で実施することが出来た。</p> <p>・イベントとして集客はあったが、展示・ワークショップへの誘導が不足し、鑑賞者・体験者が少ない企画が一部あった。また、会場(広さ)設定や展示方法にも制限があり課題が残ったものの、イベント来場者へ様々なアートを楽しんでいただく機会を提供できた。</p>	<p><b>一部達成</b></p> <p>昨年の展示・ワークショップがかなり充実していただけに、今年度については他の地区に比べ、規模が小さく残念だった。またワークショップについては体験料を500円以下に抑えるなど金銭面での考慮をしないとかなかなか簡単に参加できないと思う(実際に体験料を見て躊躇する人を何人か見た)材料代等実費がかかるのであれば、そのための補助も必要なのではないか。</p>	



	<p>事業周知を目的に、とりアートの魅力を発信するラジオ番組を制作することで、より広範の人々の興味関心を引き出し、来場のきっかけを作る。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>・「DARAZ FM」にて、番組「とりアート、もりアート、ひの de アート！」を制作し、イベント情報だけでなく、参加アーティストの活動紹介やとりアート事業の趣旨・目的を伝えるなど、様々な角度から一定期間とりアートの周知を図ることが出来た。内容・質ともに精査していく必要はあるが、継続的にこのような取り組みを行っていく。また、このほか「中海テレビ」への出演、「日本海新聞」への記事掲載をいただくなど積極的な情報発信に努めた。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>イベントのためのラジオ番組を制作したことは評価できるが、地元（日野）の方々が聞くことができない局だったこともあり、より多くの人々が触れることのできるメディアへの露出を期待したい。</p>
	<p>プレワークショップや勉強会を通して、多様な立場・価値観を共有し、ノーマライゼーションを目指した企画・運営を行う。</p>	<p><b>一部達成</b></p> <p>・会場の案内表示やエレベーターへの誘導、丁寧な会場案内やアナウンスなど、来場者が誰でも楽しめる環境作りに努めたが、勉強会等を実施することは出来なかつたため、今後の課題とする。</p> <p>・障がいを持ちながら積極的にアート活動に取り組む「リヴよどえ 郷土芸能部・音楽部」を招聘し、日ごろの練習成果の発表や鑑賞者が日々の活動内容等を知ることのできる機会を提供することが出来た。</p>	<p><b>一部達成</b></p> <p>予定していた勉強会を行うことができなかったようだが、障がいを持った方々のイベントへの参加により、企画や運営面にも良い影響があったと思われる。</p>
	<p>生きいき”ひの“ふれあいまつり、日野郡新そばまつりとの同時開催にあたり、来場者がより楽しめるよう、来場者や駐車場の案内など連携のとれた運営を行う。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>・当該地域での開催が2年目となり、生きいき”ひの“ふれあいまつり、日野郡新そばまつり、とりアート西部地区イベントの各実行委員会が会議に参加し、反省点・課題等を踏まえ運営することが出来た。</p> <p>・一部課題も残ったものの、来場者がよりイベントを楽しめるよう、駐車場案内、会場案内等の運営に係る連携や、各イベントが一体となった運営を目指し、屋外ステージをメインステージとして、ステージイベントの実施だけではなく各イベントのアナウンスやPRタイムの実施や飲食スペースを会場中央に設け、屋外ステージを鑑賞をしたり、その他ブースへアクセスしやすいようレイアウトするなど、より連携のとれたイベント運営を行うことができた。</p> <p>・各イベント来場者が他のイベントを周遊できるよう、各イベントと協同スタンプラリーを実施することが出来た。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>同時開催のいきいき”ひの“ふれあいまつり、日野郡新そばまつりとの連携を考慮した運営は評価できる。駐車場の案内については、昨年に比べ良くなっていたようだが、時間帯によっては案内のないこともあった。スタンプラリーは各会場で行っているが子供にも人気があり続けてほしい。ただスタンプの設置場所がメイン会場からかなり遠いものがあり、会場への案内もなく、途中で道に迷ってしまった。また屋外ステージ（特設ステージ）をメインステージと考えるなら、もっとしっかりしたステージを作ってほしかった。</p>
<p>県民ニーズの把握</p>	<p>※①及び※②を実施することで、アンケートなどをおしてニーズの掘り起しを行う。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>・会場周遊企画としてのスタンプラリーの効果もありアンケートの回収はスムーズであった。</p> <p>・連携してイベントを行うことで、とりアートの来場者だけでなく、生きいき”ひの“ふれあいまつり、日野郡新そばまつりへの来場者からもアンケートを回収することが出来た。引き続き、地域のニーズ把握し、今後の事業展開の参考としていく。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>地域での開催においては他のイベントとの同時開催は効果的であり、多様な層から声を聴くこともできる。その際はそれぞれのイベントがしっかりとした独自性を打ち出し、かつ連携していくという姿勢が必要であろう。</p>

	良質な作品の提供	県内で活躍するアーティストおよび過去の公募企画事業実施「とりアート賞」受賞団体を招聘し、よりテーマ性をもった良質な企画を実施する。	<b>概ね達成</b> ・自主企画事業「鳥取県の郷土芸能ステージ」では、普段触れる機会の少ない他地域の芸能発表の企画を実施、また、過去のとりアート受賞団体「ベリーダンスリサーラ」「ゴスペルオーブ」「ノームの糸車」を招聘し、「もりアート」をテーマに、イベント来場者を意識した良質な演目・演出、企画を実施することが出来た。今後、更にとりアート独自で興味関心を引き出すプログラム作りが今後の課題である。	<b>概ね達成</b> 「鳥取県の郷土芸能ステージ」を鑑賞したが、「さいとりさし踊り」については鳥取にこんな芸能があったのかと感心させられた。また米子白鳳高校郷土芸能部のステージは生き生きとした表情で、演技を行う生徒の姿がとともさわやかで印象的だった。「とりアート賞」の設定は実施者の励みにもなりよい企画だと思う。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	プレ企画としてアーティスト監修のもと、参加者(学生や一般の方)がアートに触れることのできる企画を実施、また、作品制作をすることで、より興味・関心を深める機会とする。	<b>達成</b> ・プレワークショップ「みんなでつくろうフラワーアート」では、日野高等学校でガーデニングを学ぶ生徒と絵かき・朝倉弘平による立体花壇を作成。プロアーティスト監修のもと、生徒が学んだ知識や技術を生かしながら、アーティストと生徒の完成を融合させ、アーティストにとっては新しい作品制作の可能性を、学生にとってはアート作品の制作に携わる機会を提供することができ、次代を担う若い世代の参画を図ることが出来た。また、展示・発表においては作品の展示だけでなく、「制作の過程」を伝えられるよう努めた。 ・サテライト企画「明地峠から望む大山と雲海の撮影会と『ねうブラ』」では、参加は少人数にと留まったが、プロカメラマン監修のもと、写真撮影をとおして日野の魅力を感じ取る機会を提供することが出来た。	<b>達成</b> プレ企画については実際に参加してはいないが、チラシや制作物を拝見するに地域の文化や特徴を活かした良い企画であり参加者にとっては有意義なものであったと推察する。ただこのようなプレ企画に参加するのは相当な熱意を持った方であればなかなか難しいと思うので、イベント当日の来場者に対してもアピールできる展示などを工夫してほしい。
		助成対象の公募企画事業実施者を対象に、「企画会」を設け、企画運営に携わる機会を設けることにより、企画運営への理解を深め活動者の育成へと繋げる。	<b>一部達成</b> ・公募企画事業(助成金あり)実施者を対象にした「企画会」の開催により、西部地区事業のテーマやとりアートの趣旨を伝える機会に留まらず、企画運営について参加団体とともに協議をする場を設けることによって、事業の企画運営について理解を深める取り組みを行った。しかし、企画運営の活動者の育成には至っておらず、継続的な取り組みが必要である。	<b>一部達成</b> 実際に企画会を行ったことに対する評価はできるが、育成へつなげるといふ点には至っていないよう。今後も協議する場を設け、継続的な取り組みを期待したい。
		展示・ワークショップにおいて、各ブースにおいて出展者が来場者に内容説明をするなど、来場者の興味関心をより引出せるよう取り組む。	<b>一部達成</b> ・とりアートとして来場者との積極的なコミュニケーションをとる来場者の興味関心を引き出すよう、各ブースの設置や事前の説明会などで出展者へ目的をお伝えするなど取り組んだが、出展者がブースにいないなど、一部コーディネイトが不足していた。より一層の前段階の準備や、当日ブースの個性・特色など、工夫が必要である。	<b>一部達成</b> 展示・ワークショップの会場でもあるホワイエには何度か足を運んだが、担当がいなかった時間もあり、参加者も少なかった。昨年の米子市美術館が出品者と鑑賞者とのコミュニケーションがしっかりと取れてにぎわっていただけに、残念であった。

人材育成	鑑賞者の育成	<p>地域のおまつりとの同時開催により、普段文化芸術に触れることのない方にも、文化芸術に触れる機会を作ること、より広範の人々の興味関心を引き出す。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のおまつりとの同時開催により、文化芸術に触れる機会の少ない方にも気軽に触れられる機会を提供することが出来た。</li> <li>・地域のおまつりの特色との差別化を意識しながらとリアートのプログラムを創り上げたが、地域団体のイベントプログラムと明確に差別化できたプログラムばかりではなかった。地域を巡回しながら開催するにあたりとリアート独自で興味関心を引き出すプログラム作りが今後の課題である。</li> </ul>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>とリアート以外のイベント目的で来た人が、文化芸術に触れ、とリアートイベント自体を知ることができたことがアンケートからも伺いしれた。ただそれぞれのイベントの独自性を出すことは簡単ではないため、同時開催ということに気づかなかった来場者もあったかもしれない。ステージパフォーマンス、展示・ワークショップの質の向上が文化・芸術としてのとリアートの意味合いを強め、独自性につながるものとする。</p>
		<p>実施者の実演に参加型するプログラム(20日屋外ステージオープニング)を設けることで、普段文化芸術に触れることのない方の興味関心を引き出す。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度とリアート賞受賞団体「ゴスペルオーブ」の指揮のもと、生いき”ひの“ふれあいまつり実施参加者(日野町民ミュージカル)、とリアート実施参加者(米子東高合唱部)、とリアート実行委員が協同で出演するステージを実施した。また、来場者を巻き込むプログラムともしており、鑑賞者の参加を促すなど取り組みを行った。実施者、来場者がひとつになり、会場で笑顔がたくさん見られた。文化芸術をとおしての交流ステージを実施することが出来た。今後も地域の特性やニーズを活かして継続していく。</li> </ul>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>地域の高校生をいかに参加させるかがカギとなる。このあたりが、とリアート独自のプログラムと考える。</p>
	アートマネージャーの育成	<p>アートマネージャー、サブアートマネージャー、コーディネーター(ステージ・展示・ワークショップ・広報)を設定し、役割を明確にして事業推進することで、各分野をとりまとめることの出来る人材を育成する。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野および各企画を担当制にすることで、各コーディネーターの役割の範囲など不明瞭な部分が一部あったが、以前より、責任者の意識が芽生え、活発に意見交換や運営に携わるなど担当者および委員が事業を推進しやすくなった。引き続き、アートマネージャー、サブアートマネージャー、各コーディネーターの設置により、次期アートマネージャー候補の育成としての取り組みを行っていく。</li> </ul>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>それぞれの役割や責任については、経験を蓄積し、次のアートマネージャーに受け継ぎながら、今後もより良い運営に努めてほしい。</p>
		<p>自主企画事業担当者が企画作成から、関係各所との調整まで携わることで、企画・運営が出来る人材を育成する。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主企画事業のステージ、展示・WS、広報等の各担当者は企画・運営の概ねの工程に携わり、以前と比べより企画に携わり運営することが出来き、企画を仕上げるための経験を積む機会となった。</li> <li>・その反面、関係各所との調整が多様となったため、各担当者の負担が増加してしまった。今後は担当者の負担を分散するなど、より企画を深堀できるような実施体制を整えていくと同時に、若手の育成、またモチベーションの高い人材の確保をしていく必要がある。</li> </ul>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>中心になるメンバーの方向性を統一して目的を共有することが大事だと感じる。</p>

育成した人材を活用する場の提供	公募企画事業実施者の中から、優れた企画を実施した団体へ「とりアート賞」を設定することで、翌年度以降「とりアート賞」受賞団体を招聘し、自主企画事業としてよりテーマ性を持った良質な企画を実施する機会を設ける。 本年度は、「ベリーダンスリサーラ」「ゴスペルオーブ」「ノームの糸車」が実施。	<b>概ね達成</b> ・いずれの企画についてもテーマ「もり」を取り入れた演出をするなど、よりテーマ性を持った演出の工夫がみられた。 ・「ゴスペルオーブ」については、生きいき”ひの“ふれあいまつり、とりアート実施参加者、とりアート実行委員が協同で出演するステージを実施した。また、鑑賞者にも参加を促すなど、文化芸術をとおしての交流ステージを実施することが出来た。 ・今年度実施したとりアート賞受賞団体は、とりアートの趣旨・目的を理解し、企画を実施するなど質の向上がみられた。また、2年連続開催により、「ベリーダンスリサーラ」「ゴスペルオーブ」には日野町にファンのような方々がおられ、人気の高さも伺えた。 ・引き続き、「とりアート賞」設定することで、次のとりアート賞受賞者となる人材を育成する取り組みを行っていく。	<b>達成</b> とりアート賞を設け、翌年度以降の参加機会を設けることで、実施団体が更なる質の向上に向けて取り組む仕組みができたことは評価できる。これらの団体が他の地区のとりアートや地域のイベントに参加し、より多くの人々が彼らの芸術や文化に触れる機会が増えると思う。テーマ性を持った演出はとりアートの今後の指針になって欲しい。しかしテーマ性を実施者や鑑賞者が理解するためには、全体を取りまとめ、演出できる能力の向上が必要であろう。
	総括	62.5%	62.5%

### 【成果】

・開催地を巡回することで中心地域のみでの開催にせず、より多くの人々にイベントを知っていただき、芸術文化に触れる機会を提供している。また各地域で開催することで、その地域の風土を感じながら体験することで、より理解が深まるものとする。

### 【課題】

- ・どの地区でも大なり小なり感じるのだが、やはり展示・ワークショップの部門が弱いように思われる。それが今回の西部地区では顕著に表れていたように感じた。モノづくりや作品の鑑賞を行うことで得られる経験は非常に大きいと思うので、各種教育機関や団体などと連携しながらさらに力を入れて取り組んでほしい。
- ・とりアートのオープニング(19日10時のホール)の鑑賞者は20名いなかった。集客をはかる取り組みが不十分。
- ・文化芸術という観点では、すべての実施者が水準を満たしているとは言えない。アートマネージャーのスキルアップとそれを囲む人たちとのさらなる意識の共有が必要であろう。

### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・地域での開催は集客の難しさや、運営側と実施側とのコミュニケーションの不足など様々なリスクが生じるものと思われる。しかしより多くの人に芸術や文化を広めるためにはこういった方法は重要であると考えている。現在は西部地区のみでの試みになっているが、将来的にはここで得た多くのノウハウを蓄積し、共有しながら他の地区でも試みてはどうだろうか。
- ・2日間開催で内容も異なっており、2日間参加しなければ全体が把握できない。1日の開催時間が10時から14時と少ない。内容を工夫して1日での開催にするという選択もあったかと思う。
- ・文化・芸術に興味や関心のある人はどこまでも出かけていく。日野町で開催する意義を考えれば、地元及び近隣の町からの来場者がどれくらいであったか不明(類推もできない)では不十分。アンケートの設問に工夫が必要であろう。
- ・アンケート配布枚数の実績が目標と大きくかい離している。目標値をより実態に合わせた適正なものに設定して欲しい。





第14回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2016メイン事業

鳥たちの音楽祭Ⅱ(とりアートスペシャルコンサート実行委員会)

平成28年3月21(月・祝)～11月23日(水・祝) とりぎん文化会館ほか

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント		
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会	
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	事業の核となるメインコンサート以外にも多様なレクチャープログラムを設け、様々な角度からジャズに触れていただく機会を提供します。	<b>達成</b> 「子どものためのジャズピアノワークショップ」「鳥取県吹奏楽連盟中学校選抜バンドのためのワークショップ」「楽器演奏者のためのジャズワークショップ」「レクチャー & コンサート『ジャズってなあに?!』」「内山繁ジャズ写真展 & 徳持耕一郎作品展」等、多彩な企画を実施した。	<b>達成</b> 様々な企画があり子供から大人まで楽しめるものになっていた。参加者アンケートからもとても意義のあるものであったことがうかがえる。プロの導入テクニックのすばらしさも観ていてよく伝わってきた。	
		ピアノを習っている子どもたちを対象としたワークショップを企画し、馴染みがないジャズピアノに触れる機会を提供します。	<b>概ね達成</b> 「子どものためのジャズピアノワークショップ」を開催し、子どもたちにベースやドラムと共に呼応しながら音楽を創り上げていく楽しさを体験してもらうとともに、その成果発表の場を設けた。参加者には好評であったが、今回の企画を通じて興味を持った子どもたちのフォローや、子どもたちがクラシック以外の多様な音楽に触れる機会の充実等、一個人ではカバーしきれない課題も浮き彫りになった。	<b>概ね達成</b> これからどのように続いていくかに課題が残るが、セッションによって子供たちがクラシック以外の音楽に関心、興味を持ったことは大きな成果だと思う。レッスンは小学生には少々難解なものもあったが、子供たちの真剣な眼差しはそれを払拭。初歩から徐々に上達していく姿が見て取れた。	
	裾野の拡大	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	とりアート東部地区イベントと連携したカフェスタイルのレクチャーコンサートなど、気軽にジャズに親しんでいただける企画を実施します。	<b>概ね達成</b> 「ジャズってなあに?!」と題した小ホールコンサートを、東部地区イベントの一環(ライブカフェとりアート)として開催した。非常にたくさんのお客様にご来場いただき、ジャズジャーナリストの興味深いエピソードやプロミュージシャンの演奏を安価な料金でお楽しみいただくなど、とても成果の多い催しとなった。ただ、当初は小ホールイベントのみならず他の企画も東部地区イベントと連携して実施する計画であったが、東部地区イベントと鳥取JAZZ2016の日程が重なったため、結局小ホール企画のみの連携で終わってしまった。	<b>概ね達成</b> 地区イベントとメインイベントの連携はどの地区でも今後の課題と思われるが集客もありわかりやすく楽しめるイベントであった。
			地域のジャズイベントと連携し、ホールのみならず様々な場所でジャズに触れる機会を提供します。	<b>達成</b> 『第6回鳥取JAZZ』と連携し、中心市街地での「鳥取まちなかJAZZ」や「ビッグバンド祭り」、市内ギャラリーでの「ジャズXアート展」等を開催。それぞれのイベントで多くの観客を集め、ホール以外の場所でも気軽にジャズに触れ、楽しむことの出来る機会を提供できた。	<b>達成</b> 鳥取JAZZと、とりアートメインとの連携は部外者にはわかりにくく、「ジャズXアート展」などはとりアートに関わっている人間ですら、失礼ながらメイン事業のアウトリーチかと勝手に思ってしまった。しかし「鳥取まちなかJAZZ」などでの告知は気軽に音を楽しむかた、またとりアートメインを知らない方への誘導になっていたと思われる。

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	地元活動者の出演をメインとするが、プロ奏者も出演することでコンサートとしての質の担保を図ります。	<b>達成</b> 鳥取県吹奏楽連盟中学校選抜バンド、楽器演奏者のためのジャズワークショップ参加者によるスペシャルバンドに加え、それらの指導に当たった世界的ジャズピアニスト小曽根真氏とそのグループの演奏も聴いてもらうことにより質の高いコンサートになった。	<b>達成</b> プロと同じ舞台上立つということで、通常とは違う緊張感が伝わってきた。アマチュアとプロの違いを演奏者自体も感じることで質を担保したコンサートになっていた。
		プロ奏者は出演だけでなく、出演する活動者への事前指導にも協力いただき、事業の質の向上につなげます。	<b>達成</b> 小曽根真氏とそのグループメンバーに、鳥取県吹奏楽連盟中学校選抜バンドと楽器演奏者のためのジャズワークショップの指導者として複数回鳥取に来て貰い、充実した指導と共演により質の向上につながった。	<b>達成</b> プロの指導を受け参加者の演奏能力ばかりでなく精神面ステージマナーなどにも大きな伸張が見られたと思う。
		レクチャーシリーズのワークショップ参加者に対しては、その成果を発表する機会を設け、さらなるレベルアップにつなげます。	<b>達成</b> 子どものためのジャズピアノワークショップ、鳥取県吹奏楽連盟中学校選抜バンド指導、楽器演奏者のためのジャズワークショップなどの参加者には、メインコンサートに出演してもらい、またこのような機会を設けて欲しいとの声が多数寄せられている。	<b>達成</b> ワークショップを行うことだけでなく、それを発表する場を持つことは、参加者にとって目標、励みになり素晴らしいことだと思う。
	県民ニーズの把握	とりアートのメイン事業として、来場者へメイン事業に対するニーズアンケートを実施し、動向の把握に努めます。	<b>達成</b> ワークショップ参加者やコンサートの来場者に向けてアンケートを実施。今回のようにコンサートやワークショップを組み合わせ合わせた複合型のメイン事業をまた実施して欲しいという声が多かった。	<b>概ね達成</b> 再び実施の声を受け、今後どのように展開していくか、継続していける方法が今後の課題と感じる。
	良質な作品の提供	地元の演奏者と世界一流のプロによる、ジャズの源流から最先端までを楽しめるプログラムを提供します。	<b>達成</b> ジャズの起源となったアフリカのリズムからスウィングジャズまでを中学生が、モダンジャズを社会人バンドがメドレーで表現した。また、プロが現代ジャズの最先端を聴かせてくれた。	<b>達成</b> 伸びしろのある若い方々に気づきを持ってもらう良いプログラムだった。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	プロ奏者は出演だけでなく、出演する活動者への事前指導にも協力いただき、活動者のレベルアップにつなげます。	<b>達成</b> 鳥取県吹奏楽連盟中学校選抜バンドに対するクリニックをパート別練習や全体レクチャーも含め複数回実施した事により、中学生の演奏力は飛躍的に伸び、本番では臆する事無くプロとの共演が出来た。	<b>達成</b> 複数回のクリニック、地方には学べないレクチャー、指導する先生方にも大きな影響を与えていたのではないかとと思う。
		プロ奏者による楽器演奏者向けのワークショップを企画し、地元活動者の技術や意識面のレベルアップにつなげます。	<b>達成</b> プロが個々の演奏に関する問題について毎回懇切丁寧に答えたり、課題を与えたり、一緒に演奏したりと濃い内容だった。また、モデルバンドを設定し共通する問題に取り組んだ事で他者とのアンサンブルや関係性を築く方法を学び、参加者の今後の活動の意欲に繋がった。	<b>達成</b> プロの指導の素晴らしさが演奏者だけでなく、地元指導者、愛好者のレベルアップになり次世代育成につながっていくことを期待します。

		指導を仰いだ世界一流のプロの演奏を間近で鑑賞する事により、刺激と新たな目標を持っていただく。	<b>達成</b> プロが指導だけではなく一緒に同じ楽譜を演奏したことで、楽譜から音楽をどう理解し、自分たちの音楽にしていこうかという事を学び、新たな勉強の目標が見えた。	<b>達成</b> プロと一緒に学び、セッションしたことで今後の音楽への関わり方を考える一助になり、想像以上のものを学んだと思われる。
	鑑賞者の育成	主に一般鑑賞者を対象としたレクチャー&コンサートを実施します。	<b>達成</b> レクチャー&コンサート「ジャズってなあに?!」を実施し、満員のお客様にジャズがどんな音楽で日本ではどのように発展し、愛されているかなどを知っていただく機会になった。	<b>達成</b> ジャズに不慣れなものにはレクチャーに参加したことでメインホールでのコンサートがさらに楽しめるものとなった。
		演奏だけではないアートとしてのジャズの多様な魅力に触れる機会を設けます。	<b>達成</b> ジャズ写真家内山繁氏の著名なジャズミュージシャンの写真展や鉄筋彫刻、線画作品などの展示を行い、たくさんの来場者に様々な角度からジャズを感じていただいた。(来場者数)	<b>達成</b> とてもグレード高く興味深いもので、それだけ見て帰る方もあったのではないかとおもうほどの賑わい。JAZZ をテーマにほかのアートとのコラボも大いに期待できるのではないと思われる。
人材育成	育成した人材を活用する場の提供	地域のジャズイベントへの出演などで、本事業に関わった活動者の活動に拡がりを持たせます。	<b>達成</b> ワークショップ参加者には 11/3~6 に開催された第6回鳥取 JAZZ2016 にも出演していただき、今後も継続的に出演していただく予定。	<b>達成</b> 音楽のジャンルが多々ある中、今回参加した中学生の中から、ひとりでもジャズを楽しむ人材が出てくるように出演の依頼は継続していられることを希望します。
		総括	95. 6%	93. 3%

### 【成果】

- ・プロの指導、演奏、そしてプロとのセッションはこれから次世代をになっていく子供達にとって大きな活力となっていくと感じることができた。
- ・「とりアート東部」でのレクチャーコンサートや、「とっとり JAZZ」との連携が入場者の偏りがないようにうまく活用されていた。
- ・プロとアマチュアとの違いをしっかりと自覚するきっかけになったのではないと思われる。
- ・ワークショップ開催など様々なアウトリーチすべてがメインステージにつながっていた。

### 【課題】

- ・入場者数の目標値(700名)が低いのではないか。メイン事業としてより多くの県民に鑑賞してもらえるようにするべき。
- ・適当な大きさの会場がないのも問題だが、かなり有名なプロの出演、低料金にもかかわらず集客が少ないのは広報の問題なのか？県民の意識の低さなのか？
- ・今後の文化芸術に対する鳥取内観賞者の育成が望まれる。

### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・今回のようなワークショップの継続を希望します。
- ・会場が広すぎるのはジャズコンサートでの一体感が薄れもったいなかった。
- ・ワークショップ、レクチャーコンサートなど中部、西部でもやってほしかった。
- ・ハワイエでのウェルカム演奏、会場外でのお見送り演奏はとても爽やかで良かった。



第14回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2016 中部地区事業(中部地区企画運営委員会)

平成29年2月18日(土) 倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の 拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	「次世代育成」をテーマに、子どもが参加できる企画を積極的に実施し、親子・家族で楽しめるイベントにします。	<b>達成</b> 子どもが楽しめるワークショップやバルーンアートを実施するとともに、出演・参加・鑑賞する企画も行い、多くの家族連れで賑わった。また、園児・児童対象にした絵画コンクールの応募も過去最多の307作品あった。	<b>達成</b> 委員のバルーンアーティストのほか、米子市出身(松江市在住)のバルーンアート・パフォーマーが盛り上げに寄与。会場は多くの家族連れでにぎわい、ワークショップも子どもが楽しんでいた。一方、もう少し年齢の高い層の子供に向けた内容も充実してくるとさらに良い。絵画コンクールは中高生の部も設けてはどうか。
		幅広い文化芸術の事業を実施し、より多くの世代が参加しやすい催しとします。	<b>概ね達成</b> 実施した15イベントは幅広いジャンルで、小学生～高齢者が出演・参加する企画や、幼い子どもから大人まで楽しめるワークショップ等を実施して、多くの世代が参加できる催しとした。	<b>概ね達成</b> ステージイベントも多彩でワークショップも各種あった。小ホールとロビー・通路のみという会場の制約があったため、幅広くといっても限度はある中で努力されていた。一方で会場が混雑し、高齢者がゆったり鑑賞するには不向きであり、より多くの世代が参加しやすいかといえば、難しい面もあった。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	誰でも気軽に鑑賞できる企画を充実させます。	<b>概ね達成</b> いろいろな方に興味を持ってもらえるよう、音楽(アカペラ、弦楽、ゴスペル)や舞踊(ヒップホップダンス、踊り)、演劇(狂言風民話小劇場)、美術(ライブペイント、絵画展示)、大道芸(バルーンアート)などの企画を実施した。	<b>概ね達成</b> なにぶん狭い会場でステージイベントができる舞台も一つであったため、企画(イベント)を多くすると、数は充実するが上演時間は短くならざるを得ないため、内容の充実まで達成するのは難しい。その中では、よく工夫されたと思う。
頂点の 伸張	県内の文化芸術の質の向上(事業の質の向上)	小ホールでのコンパクトな実施により、いろいろな事業を満喫できるよう工夫します。	<b>達成</b> 小ホール内にステージとワークショップや「バルーンアート」、「ライブペイント」の鑑賞スペースを設け、来場者が一度に鑑賞や体験しやすい環境を整えた。	<b>達成</b> 小ホールに各種多彩な催しが「ごった煮状態」であり、活気に満ちた「狭いながらも楽しい会場」となっていた。ともすれば「ごちゃごちゃすぎ=雑多である」という見方もあろうが、それは来場者が多かったための嬉しい悲鳴であり、やむを得ない。ホール舞台が一段高いため、ワークショップ会場からステージ催事も見られた。
		鑑賞だけでなく、来場者が実際に参加・体験できるよう、体験型ワークショップの充実に努めます。	<b>達成</b> 来場者が参加・体験できるワークショップなどを9企画実施した。	<b>達成</b> かつて西部地区事業でビッグシップのホールスペースをステージイベントなどの場とし、会館の舞台をワークショップスペースにしたいものの縮小再現したようなレイアウトで、狭い中において出来る限りのワークショップを実施していた。

		事業テーマ、コンセプト等を明確にし、事業内容の充実を図ります。	<b>概ね達成</b> テーマを「次世代育成」として、子ども・若者が出演する企画、親子向け企画を多数実施する予定であったが、鳥取県中部地震のため延期して実施したこともあり、出演や展示できないものもある中で充実に努めた。	<b>概ね達成</b> 今年度は、当初掲げたテーマを完全に実施するには困難な環境であり、その中では目標に向けて最大限の努力をされたことが伝わる事業であった。
		小ホールという限られたスペースを有効に活用し、様々な企画を実施します。	<b>達成</b> 小ホール内に様々なスペースを設けることで、来場者にそれぞれのイベントに興味を持ってもらうことができた。また、会場装飾はスペースを取らないように工夫した上で、華やかさを演出した。	<b>達成</b> 本来は殺風景な小ホールの壁面(イベントステージ背面)を大きな造花で飾り、竹とうろうのオブジェも、委員の手により「とりアート」の文字灯りが表現されるなど、制約のある中で、程よい会場装飾にも取り組んでいた。
	県民ニーズの把握	昨年のアンケート結果、評価等を見直すことで、来場者の意見に応え、より良い事業になるよう努めます。	<b>概ね達成</b> スタッフが認識しにくいとのアンケート結果を受けて、スタッフジャンパーをわかりやすいものに一新した。また、昨年度の評価で指摘を受けた女性向けのものが多い点については、男の子や父親が興味を持つ「竹とうろうづくり」を実施した。	<b>概ね達成</b> 今年度は昨年とは催事規模も取り組める内容も大きく異なるため、催事縮小によって予算面に余裕のある年度にスタッフジャンパーを更新されたのは正しい判断。
頂点の伸張	良質な作品の提供	委員自らが推薦する企画も取り入れ、質の高い事業も実施します。	<b>概ね達成</b> 「第12回ゴールドコンサート」で優勝した「DJ Yuta & Yuichi」や「ライブペイント」、「竹とうろうづくり」を企画し、良質な作品を提供した。	<b>概ね達成</b> 会場の制約のため、ごった煮状態の鑑賞環境では、質の高さをじっくり感じるのには難しい面もあったが、絞ったがゆえに「しょうもない企画」がなく、質の面ではまずまずの出来栄であった。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	次世代を担う子どもたちや若年層の発表の場を提供や、園児・児童の絵画コンクールの表彰を通じて意欲の向上を図ります。	<b>達成</b> 弦楽やヒップホップダンスを通じて、発表の場を提供した。絵画コンクールの応募が過去最多だったことから、本事業への関心が高まり、意欲の向上に繋がっている。	<b>達成</b> 子どもたちの出演や、子どもも楽しめるワークショップ、例年の子どもを対象にした絵画コンクールなど、子どもとその家族が参加しやすい催事が多くあった。絵画コンクールの応募が増えた要因は何か? 来年度に減らないように何が奏功したのか分析が求められる。
		地域や教育機関との連携により、後継者や担い手を育成します。	<b>一部達成</b> パルーンアートの一部を除いて、中部地域の活動者・団体が事業を実施した。また、高校にボランティアを募ってもらったが、後継者や担い手を明確に育成することはできなかった。	<b>一部達成</b> 今回は、開催するのに精一杯で、教育機関連携や後継者育成などの目標を達成するのは、そもそも難しいだろう。次年度は、例えば中学・高校の合唱部に参加を呼び掛けるなどの取り組みをしてはどうか。
人材育成	鑑賞者の育成	誰もが気軽に文化芸術に触れる機会を提供して、文化人口の底辺拡大を図ります。	<b>概ね達成</b> 地震のため延期して、小ホールという限定スペースの中で、できる限りの企画を実施し、文化人口の底辺拡大に努めた。	<b>達成</b> 当初、中止となったものを、小ホール再開を受けて、半日だけでも開催にこぎつけ、とりアートの目的のひとつである「誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供」を実践した。



		新たな企画を取り入れることで、これまでとりアートの足を運んだことのない層の来場を狙います。	<b>概ね達成</b> 実施した一部達成5イベントのうち、中部地区事業で初めてとなる「ライブペイント」や「竹とうろうつくり」、「ゴスペル」を新たな企画として取り入れた。	<b>一部達成</b> 新たな企画を目的に来たお客様がどれくらいあったのかが分からないため、新企画によるものとは言いきれない。ただ、新たな企画を積極的に取り込んだ点は評価したい。中部では初でも他地区では実施されていたものもあった。県内初のものを中部から発信し、他地区にも展開できる企画が生まれることを期待する。
	アートマネージャーの育成	アートマネージャー2名を配置し、アートマネジメント人材を育成します。また、アートマネージャーが主体となった組織体制で運営することで、中部地区企画運営委員会のアートマネジメント力の更なる向上を図ります。	<b>一部達成</b> アートマネージャーが主体となった組織体制でスムーズな準備・運営をすることができた。しかしながら、次に繋げるアートマネジメント人材の育成はできなかった。	<b>概ね達成</b> アートマネージャーが主体となって組織を引っ張ったからこそ、困難な環境の中で開催できたと思う。今回は委員会のアートマネジメント力の向上ができなかったのはやむを得ない。次回の課題としてほしい。
人材育成	支援者の育成	幅広い分野に出演、参加を呼びかけ、理解者を増やすとともに、事業の充実により幅広い世代の方を支援者へと導きます。	<b>概ね達成</b> 新しい分野や障がい団体に出演を依頼するとともに、高校生のボランティア一部達成2名が当日の運営に携わったが、若い世代の更なる参画は必要である。	<b>達成</b> 障がい者団体の出演など、準備期間が短い中での、事業目的達成のための努力が感じられる。直接的な支援者育成につなげることは難しかったと思うが、困難な環境の中で開催された中部のとりアートを支援したい気持ちになった鑑賞者は多かったと思う。
		総括	73.3%	77.8%

#### 【成果】

- ・鳥取中部地震のため、主会場の倉吉未来中心が被災し、一旦は中止せざるを得なかったものを、小ホール再開を機として、会場縮小・会期も半日と限られた制約の中ではあったが、あきらめずに開催にこぎつけた姿勢と努力を大きく評価したい。
- ・狭い空間でさまざまな催しをどう組み込むかという点で知恵を絞られたことは良かった。コンパクトながら次世代育成のテーマに沿って、子どもを中心としながら新企画も取り入れた幅広いジャンルを扱っていた。
- ・会場は多くの親子連れでにぎわっており、中部の元気につながる事業となった。

#### 【課題】

- ・アンケート結果によると、特に良かった企画についてバルーンアートが抜きん出て高く、ワークショップと展示がそれに続いており、ステージイベントについては、最も高い「倉吉室内合奏団・倉吉ジュニアオーケストラ」で、ワークショップや絵画展示の半分程度となっている。オープンなステージで鑑賞環境が最適ではなかったことも一因ではあるが、この点を分析し、次年度はステージイベントのさらなる充実に努めてほしい。
- ・ステージ上の演目表示はもう少し大きく。
- ・大きな音のするワークショップは、ステージで演奏がある場合は一時中断するか、または最初からホワイエで実施するなどの工夫があれば、静かな演奏でも鑑賞しやすかった。

#### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・出入り口が一つだったため、入場者数やアンケート回収率も高かったと思われる。昨年度までの入場者数と異なり、リアルな実態の数で、データとして大いに分析の役に立つのではないかと。
- ・会場では多くの親子連れが楽しんでおり、「文化芸術は心の栄養と元気の源」を実践された。地震の影響で未だ自宅の修理が終わっていない委員や関係者がいたかもしれないが、開催を実現した努力に素直に拍手を送りたい。
- ・オープニングを盛り上げたバルーンアートパフォーマー・さと原さんは、松江市在住だが県内の米子市出身で、鳥取中部地震の後、県中部の北栄町で震災復興応援のため、中部の子どもを元気づけようとイベントに駆け付けられた人で、県中部とも縁があり、「県外の方が中部を応援してくれているという」という面でも最適なお人選であった。
- ・今回、会場に制約がある中で知恵を絞られたと思う。その成果を次回、発揮してほしい。今回の経験をどう生かすか、真価が問われることになる。

第38回鳥取県書道連合会展(鳥取県書道連合会)

平成29年2月1日(水)～5日(日) 鳥取県立博物館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	役員による特別展示「童謡・唱歌を書く」を併催し、童謡・唱歌のふるさと鳥取との文化コラボレーションを図る。	<b>達成</b> 役員34名による特別展示「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく読みやすいことから鑑賞者の反応は良く、アンケートで満足、大変満足を選ばれて方々の大きな理由となっている。	<b>達成</b> 一般の人も読める書体と内容が、童謡・唱歌といった鳥取県民の文化に根ざしたものであり、鑑賞者の関心も高かった。鳥取の文化アイデンティティの確立を達成した。
創造	質の高い文化芸術活動	約600名の会員の中から、150人を選抜し、展覧会の質の確保を図るとともに、知事賞他の賞を設け、競い合う中で、書道技術の向上を目指す。	<b>概ね達成</b> 150名の選抜展として、ある程度の質の確保は図ることができた。知事賞、県議会議長賞、県教育長賞を各機関からいただき、出品者のモチベーションアップは図れたものと思われる。 特に、篆刻作品が初めて受賞するなど、広がりを見せた。しかしながら、賞対象外の無鑑査出品者のモチベーション維持が変わらず課題。	<b>概ね達成</b> 賞を設けることで、出品者のモチベーションがアップした。と同時に、スキルアップにもつながった。しかし、無鑑査の出品者のモチベーション維持が課題との指摘は、評価委員として作品を通して見抜くことは難しい。提案としては、奨励賞等の賞を設けてはと思う。ただ、書の道を歩く人たちは、人格を含め高い芸術の求道者であり、その結晶を展覧会で披露して欲しいと願うのは至極当然。
拡大	県民の文化活動支援	オープニングに、フルート奏者をゲストとして招き、唱歌を演奏していただくことにより、特別展示「童謡・唱歌を書く」とのコラボレーションを図る。	<b>達成</b> オープニングセレモニーに、フルート奏者(県内在住:福田初美氏)による唱歌の演奏を取り入れ、音楽とともに開会した。 開会式参加者に大変好評であった。	<b>達成</b> 約60名の参加者があった。ロビーは鑑賞者の熱気に包まれていた。フルートによる唱歌の演奏は、心に残り、続いて書を鑑賞する時、筆運びが目に見え、浮かぶような心持になった。特別展示との距離感が一気に縮まった。
	県民への鑑賞機会の拡大	「童謡・唱歌を書く」の特別展示により、ややもすれば難しいイメージのある書道について、読みやすく、親しみやすい作品を鑑賞していただくことで、楽しんでいただく。	<b>達成</b> 役員34名による特別展示「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく読みやすいことから鑑賞者の反応は良く、アンケートで満足、大変満足を選ばれて方々の大きな理由となっている。	<b>達成</b> 特別展示は、内容が身近であると同時に文字も読みやすい。県民への鑑賞のきっかけになる優れた手法だと感じた。
		新聞広告をはじめ、新聞記事掲載の働きかけ、及びポスター・チラシ・DM・駅への立て看板によって、広く広報する。	<b>一部達成</b> 今回、新聞記事による事前宣伝は叶わなかった。その他の広報手段は計画通り行ったが、会期の一週間後に鳥取書道連盟の記念展が迫っており、広報が分散した感がある。	<b>一部達成</b> 来場者の推移:平成26年12月、550名:平成28年3月、1,026名:平成29年2月682名。平成28年は、新聞紙上に有識者による寄稿文を載せるなど新聞広報に力を入れている。
		受付に出品者を中心に作品を説明できる会員を常時2名以上配置し、鑑賞者の鑑賞の手助けを行う。	<b>概ね達成</b> 受付に出品者を中心に作品を説明できる会員を常時2名以上配置し、鑑賞者の鑑賞の手助けを行った。しかし、受付係の話し声が耳障りとのアンケート意見もわずかであった。	<b>概ね達成</b> 会場スタッフに声を掛けたらポイントをわかりやすく説明してもらい大変満足した。ギャラリートークの時間割をつくり機動的な説明ナビを提案したい。書道展の受付は、他の展示と違い、従来からスタッフの私語が気にかかる。

育 成	人材育成 (指導者、 後継者 等)	約600名の会員の中から、150人を選抜し、展覧会の質の確保を図るとともに、知事賞他の賞を設け、競い合う中で、書道技術の向上を目指す。	<b>概ね達成</b> 50名の選抜展として、ある程度の質の確保は図ることができた。知事賞、県議会議長賞、県教育長賞を各機関からいただき、出品者のモチベーションアップは図れたものと思われる。 特に、篆刻作品が初めて受賞するなど、広がりを見せた。しかしながら、賞対象外の無鑑査出品者のモチベーション維持が変わらず課題。	<b>概ね達成</b> 賞の力は、ある程度の質の向上にはなると考える。出品者のモチベーションアップは実現できたと推察する。しかし、無鑑査の出品者のモチベーション維持については、評価委員が作品を通して見抜くことは難しい。書の道を歩く先生方であり、人格向上と、芸術性の追求は、一日是好日。率先垂範を行うしかないのでは。
		図録を発行することで、記録していくとともに、出品者の歴史に残るというプレッシャーから作品制作への高いモチベーションにつなげ、一方で、会員及び書愛好者の書上達への縁(よすが)とする。	<b>概ね達成</b> 図録を発行。 どこまで、モチベーションアップに繋がったのかは、少々図りづらいところ。会員諸氏が今後の作品作りに当図録を参考にされることを期待する。	<b>概ね達成</b> 図録を発行し、歴史に残す作業は、本人のみならず書愛好家にとってもありがたいこと。また、公立図書館への寄贈をお勧めしたい。
総括		73. 3%	77. 8%	

#### 【成果】

- ・書の展示は「書道」という他の芸術と違った、書の道を歩く芸術家たちの苦悩と喜びが、一筆一筆に見て取れる。そんな、墨の濃淡、かすれ、筆の勢い、ためらい、等々まさに人生です。県民がこのような芸術に触れ親しむことで、normalization(ノーマライゼーション:標準化、等生化、障害があっても等しく生活する機会を与えるべきとする考え)を達成できると考えます。
- ・また、書の切り口を変え、童謡・唱歌を書くことで、鑑賞者を手元にグッとひきつけることができた。

#### 【課題】

- ・アンケート回収率が一桁にとどまった。会場での声掛けが不足しているように感じた。

#### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・「童謡・唱歌を書く:この特別展示は、書道を通じて鳥取の文化を県内外に広めるものとして、素晴らしいと感じた。県外の書道愛好家の来鳥を促す企画を期待したい。(ネットワーク作りも必要では)
- ・オープン時の柴山会長のお話やギャラリートークの内容はわかりやすく、レクチャーそのものだった。「書」を一般の人にも親しんでもらえるようにという気持ちが心に伝わった。
- ・出品目録は鑑賞の手助けとなった。
- ・作品の釈文の文字が小さく、かつ平置きされていたため読みにくかった。
- ・図録のあとがきによると、芸術出前講座に行った小学校で、「習字が好きな人、手を挙げて」の問いにほとんど手が挙がっていなかったとある。人材育成につながる書道展は、いかなるイベントに発展していくべきか。今こそ、考えるターニングポイントだと思料する。今回の書道展の来場者人数682名が如実に表している。



## IV 専門家評価

### 第14回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2016 メイン事業 鳥たちの音楽祭II メインコンサート This is Jazz!! 平成28年11月23日(水・祝) とりぎん文化会館

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 木野彩子

#### 1. はじめに

今回のメイン事業で扱われたジャズは音楽コンサートであり、音楽の専門家ではない人間のコメントであることを先に記しておく。ダンスは音楽と密接に結びついており、様々な音楽家(ジャズ、即興、クラシックなど)とのセッション、作品制作を行ってきているが、あくまでダンスの視点となる。ジャズにも歴史があり、その背景をきちんと理解しきれていないまま鑑賞している点は否めない。そのため、公演完成度よりも公演運営全体について大きく捉え評価、報告を行うものとする。

#### 2. 基本方針に基づく評価

##### (1) 企画意図

プロデューサー菊池ひみこ氏は長年ジャズピアノ奏者として活動し、Jazz bar アフターアワーズを運営、鳥取におけるジャズ文化を広げる活動を行ってきた。今回の公演も「ジャズの音楽として、また文化としての面白さや素晴らしさをワークショップやレクチャー、コンサートを通じて体験、体感していただく企画です」(とりアートチラシより)と記しており、複合的な企画となっている。これは県文化政策の基本的な方向によれば「裾野の拡大」を目指す活動であると言えるだろう。

3年前に同地区で行われたメイン事業の発展であり、さらなるJazz文化の広まりを試みたと考えられる。鳥取県東部は菊池氏の活動のほか、鳥取Jazz(街中でジャズ音楽の演奏などが行われるフェスティバル)なども開催されており、県の中で東部はジャズのイメージができてつつある。そういう意味では裾野が広がってきていると言えるだろう。

##### (2) 実施手法

今回レクチャーなどが4種開催されており、その参加者属性は別途資料で見ることができる。これらのワークショップのうち「子供のためのジャズピアノワークショップ」「楽器演奏者のためのジャズワークショップ」は演奏者、かつ対象が限られることから少人数の参加にとどまっている。告知という点でも地元の大学、しかも音楽分野もある芸術文化センターにすらチラシが届いていないという状態であり、せっかくのワークショップ機会であるにもかかわらず、「認識されないまま」であった可能性が高い。多くの人に知っていただくという意味ではコンサート以上にこのようなレクチャー、ワークショップを重視する必要がある、広報面についてはさらなる努力が必要ではないかと感じられた。

また、ジャズにはじめから興味がある人以外の人を巻き込んでいくという点では、ジャズ以外の要素とつなぐことが必要で、今回の公演で言えば写真彫刻作品展示との重ね合わせ、フリースペースでの演奏(米子中学生)などは効果的であったと考えられる。が、今回は同一日程で行っているため、予告宣伝を兼ねて事前より行っていくとさらなる効果が期待される。

またダンスや演劇など他のジャンルとのコラボレーションを試みることもありうると考えられた。

##### (3) 来場者の属性

アンケートの回収率がよくはないので、実際の来場者の属性をそのまま示すものではないが、本公演の来場者アンケートによると、40歳以上の比率が非常に高い。参加中学生の親、家族などが参加しているからとも考えられるが、本来のジャズに関心を持つであろう若者層の参加が少ないことが今後の課題点ではないかと考えられる。実際観客席でも若者層が少なかった。また、出演した中学生選抜学校が西部であったため、集客にそのままつながりにくかった可能性もあるのではないだろうか。

ジャズ文化の裾野を広げることを考えると、広く小・中学生に告知し、2階席を無料開放するなどの可能性も考えられるのではないだろうか。中学生参加者を除いた入場者数は660人であり、この規模(予算規模2000万)の公演としては決して多くはない。3万円以上の予算を一人当たりつぎ込んでいる形に

なってしまう。文化活動の効果は教育に似て一過性のものではなく、長い目で見ることが必要である。多くの若い世代がまず本物に触れ「やってみよう」という興味を持つきっかけとなるのであれば、そのような思い切った試みも一つの可能性ではないだろうか。

#### (4) 観客の反応及びアンケート結果

アンケートの集計結果、自由記述によると概ね良い反応であるが、あえてマイナスの側面を挙げるとすれば、①「来場者が少ないのが残念、広報不足」②「菊池さんの演奏も聴きたかった」③「大人は別の機会に発表されては」という部分が挙げられる。①の来場者については(2)～(3)であげたようにおそらく今後の広報活動が課題となるだろう。②プロデューサーの菊池氏もまた世界的に有名なピアニストであり、彼女とのセッションを希望する声があることもよくわかる。おそらく今回はプロデューサーとしての職務に専念したのだろうが、2回目の試みということもあり、鳥取市民の中でマネジメントをする人が他に出てくるようになっていくことが、今後求められていくのではないだろうか。ジャズを演奏するだけでなく、ジャズを紹介する、広める協力者のネットワーク作りがこの主催団体の今後の課題であると考えられる。③のワークショップ参加者の大人による発表については観客側もお金を払ってくる以上それなりのレベルを求めてくることの流れであり、単純に裾野の拡大、あるいは自己表現だけではこの規模の公演を支えることはできないということでもある。プロフェッションとしてお金を取れる発表を出来るのか、という点についてはシビアに捉える必要があるだろう。観客の目を鍛えるということもこの事業の大きな目的であると考えれば、純粋にすごいものを見るという経験も必要ではないかと考えられた。

頂点の伸張と、裾野の拡大と文化政策の基本的方向には書かれている。そこでいう頂点の伸張は単純に鳥取のパフォーマーを増やすことではないのではないかと。観客としての見る力、感じる力を進展させるためにできれば、演奏者のためのレクチャー、ワークショップだけではなく、聞き手側のさらなる掘り起こしが必要であると考えられた。

### 3. 公演に対する総評

中学生たちの努力はよく表れていたし、公演自体は成功と言ってよい。アンケートの自由記述にあるようにプロフェッショナルの演奏に感動する声も多く出ている。ワークショップ参加の大人たちの演奏に対し厳しい意見もあるが、全体を通して公演を見て批判的な意見はなかったと感じる。プログラムも演奏だけではなく、話を間に挟むなど初めての人にもわかりやすくなるよう工夫されていた。しかし、このような機会を知らないままになってしまっている現状は非常に残念であり、この事業の課題であると考えられた。

これは公演の出来のよし悪しではなく、制作の問題である。

また、3年に一度という形をとることにより、中学生の参加もあくまでこの年度にこの中学に入って吹奏楽をやっている「ラッキー」だったという形になってしまうことが人材育成の側面から見て疑問である。このような育成事業は長く継続的に行っていくことで発展する。この公演を見た小学生がそれを目指すようになることによって、格段にレベルが上がっていくことだろう。

東京世田谷のパブリックシアターでは日野皓正のリードのもと中学生のジャズバンド公演が12年続いている。これは区内全域の中学生から参加者を募り春から夏に向けて行うワークショッププログラムである。人材育成に本気で取り組むのであれば現在のようビッグバンドは呼べなくなるかもしれないが、予算を3年分に分けて3回の公演へとつないでいくなどの可能性もあるのではないだろうか。

演劇では静岡舞台芸術センターのSpacenfantプロジェクトも7年継続している事例である。卒業生が役者などとして舞台上で活躍し始めただけでなく、下の世代をサポートするなど循環が起り始めている。長い目で見た設計がこれら育成事業には不可欠であるが、全国的に見ても3年程度でプロジェクトそのものがなくなってしまうことが多く、このような継続事例はまだ少ない。今回の中学生バンドは継続事業ではあるが、今回の公演終了で終わってしまったのはもったいないのではないだろうか。

2000万という予算は県の外からも観客を呼び込めるような作品を作り出しうる規模の予算である。鳥取県から日本全国、あるいは世界へと発信するような何かを作り出していくのか、あるいは人材育成のためのものなのか。前者であればよりプロフェッショナルを求める必要があるだろうし、極端に言えばよりオリジナル色を打ち出す必要がある。後者であればより若い世代への働きかけ特に教育機関との連動が不可欠であろう。

何れにしても現在は両方を取り入れようとした結果、どちらつかずになっている現状がある。これらは今回の公演だけではなく、とりアートとは何を指すのか、また鳥取県の文化政策の方向性が曖昧であるということであり、今後見直していく必要もあると提言する。

#### 4. さいごに

私自身も研究者ではあるが、実演家でもある。実演家とプロデューサーとマネジメントスタッフは本来別のものである。今回菊池氏の尽力は大変であったことと予想がつく。その努力にまず敬意を表したい。氏がこのように発展させた鳥取東部ジャズの文化をいかに広げていくか、長期目線でみていく必要があるだろう。また、パフォーミングアートはどうしても一度でおしまいになってしまう傾向があるが、本来ジャズはその変容性にこそ面白みがある。鳥取県西部でも合わせて公演を行う県内ツアー計画なども考えられるのではないだろうか。これまで6年間続けてきたこの活動がさらに発展していく可能性と菊池氏本人も実演家として舞台上で魅せるパフォーマンスを期待してこの報告を終わることとする。

#### 参考資料

日野皓正” Jazz for kids”

<https://setagaya-pt.jp/performances/20160820jazzforkids.html> (2017. 2. 23 参照)

SPAC enfant

<http://spac.or.jp/spac-enfants> (2017. 2. 23 参照)

## 鳥取県文化芸術事業評価委員会

### ■委員名簿

氏 名	職 名 等	備 考
おのうえ あきら 尾上 明	新日本海新聞社記者	会長
なかむら ゆりこ 中村 由利子	アトリエ yuri (フラワー&アート工房)、 ワークショップデザイナー	副会長
いしだ たけひろ 石田 健博	米子市民劇場会員	
いわさき るり子 岩崎 るり子	米子市文化協議会 (米子マンドリンオーケストラ)	
おぐら ひろし 小椋 博志	倉吉室内合奏団 (コントラバス)、 元河北中学校長	
こんどう えいこ 近藤 映子	鳥取女声合唱団団長、 鳥取市文化団体協議会理事	
なんげ ひさみつ 南家 久光	行政書士 (南家行政書士事務所)	
まえだ なつき 前田 夏樹	鳥取短期大学生生活学科住居・デザイン専攻 准教授	
くもさか ひろみ 雲坂 紘巳	イラストレーター	
こだに じゅんこ 小谷 順子	倉吉文化団体協議会常任理事	
さえき てつや 佐伯 哲哉	とっとり花回廊	
たにぐち ひろのり 谷口 博教	元総務省島根行政評価事務所長	
なかがわ まさあき 中川 正昭	鳥取シティバレエ事務局長、 鳥取市文化団体協議会理事	
ふじおか ちなつ 藤岡 千夏	鳥取大学4年生	
ほんだ ゆみこ 本田 祐美子	米子管弦楽団	

## ■事業別評価報告書執筆担当一覧

番号	主体	団体名	事業名	期日	実地検証 委員数	執筆委員 (●:主担当)
1	鳥取県	鳥取県地域振興部文化政策課	第7回とっとり伝統芸能まつり	6月26日(日)	4	●尾上会長 小椋委員
2	鳥取県	鳥取県地域振興部文化政策課	第60回鳥取県美術展覧会	9月17日(土)~10月30日(日) 他	7	●谷口委員 本田委員
3	鳥取県総合 芸術文化祭 実行委員会 /鳥取県	東部地区企画運営委員会	第14回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2016東部地区事業	11月5日(土)・6日(日) 他	5	●雲坂委員 佐伯委員
4		西部地区企画運営委員会	第14回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2016西部地区事業	11月19日(土)・20日(日)	5	●前田委員 南家委員
5		とリアートスペシャルコンサート 実行委員会	鳥たちの音楽祭Ⅱ メインコンサート This is Jazz!!	11月23日(水・祝) 他	10	●中村副会長 石田委員
6		中部地区企画運営委員会	第14回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2016中部地区事業	2月18日(土)	4	●尾上会長 小谷委員
7	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県書道連合会	第38回鳥取県書道連合会展	2月1日(水)~2月5日(日)	3	●南家委員 雲坂委員

## ■評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	平成28年 6月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成28年度評価委員会の会長・副会長の選任について</li> <li>(2) 平成27年度評価対象事業改善計画の承認について</li> <li>(3) 平成28年度評価方針・評価方法について</li> <li>(4) 平成28年度評価対象事業について</li> <li>(5) 平成28年度評価対象事業の現地検証・執筆担当について</li> </ul>
第2回	平成29年 3月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 評価対象事業にかかる意見交換及び事業別評価報告書(案)の検討について</li> <li>(2) 今後のスケジュールについて</li> <li>(3) 平成29年度「鳥取県文化芸術芸術評価事業」について</li> </ul>

# 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

## (目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## (評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

## (委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

## (委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

## (組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

## (会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

## (任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

## (会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあっては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域振興部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。



平成28年度

## 鳥取県文化芸術事業評価報告書

平成29年4月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会（事務局：鳥取県地域振興部文化政策課内）

電話 0857-26-7134

ファクシムル 0857-26-8108